

2019年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト」

(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業) 成果報告書

2019年度 障がい者スポーツ 推進プログラム



令和2年3月 徳島県

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、徳島県が実施した2019年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

はじめに

本県におきましては、平成28年4月、障がい者が自立して社会参加し、自己の個性や能力を発揮することができる社会の実現を目指す「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」を施行し、その理念を実現するべく平成30年3月には、新たな「徳島県障がい者施策基本計画」を策定し、「障がい者スポーツの振興」に一層力を注いでいるところです。

パラリンピックにおいても、東京大会まで半年を切り、障がい者スポーツへの関心が一層高まった年となりました。

こうした中、本県では、平成27年度から平成29年度にかけて、スポーツ庁委託事業「地域における障がい者スポーツ普及促進事業」に取り組み、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツ活動に取り組める環境づくりのための「実践研究」事業を実施して参りました。また、障がい者スポーツの裾野の拡大、競技力の向上、相互理解の視点から、スポーツ部局、教育委員会、有識者、障がい者スポーツ関係団体等との「連携・協働体制」の構築を図ってきました。

本事業は、上記3ヶ年の「実践研究」の成果を発展させることを目的に、平成30年度から取り組み、地域における課題解決の検証を進め、各団体が持つノウハウを活用しながら、障がい者の方が身近な場所でスポーツを実施するために有する課題や課題解決のための事業実施、実施した事業から見えてきた新たな課題を県内障がい者スポーツ関係団体と共有しました。

本プログラムは、上記内容について実施した、その成果を検証し作成したものです。多くの方々にご覧いただき、忌憚のないご意見、ご助言を賜れば幸いです。今後更に、これまでの成果を発展させるとともに、課題解決の検証を進め、障がい者スポーツの普及促進を図っていきたいと考えております。

最後になりますが、本事業の実施に当たり、御指導、御協力を頂いた、関係機関の方々や学校等の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

令和2年3月

2019年度障がい者スポーツ推進プログラム（目次）

I 障がい者スポーツ推進プロジェクト

1 事業の目的	1
2 実施事業の概要	1
3 事業効果	1
4 まとめと今後の課題	2

II 実行委員会

1 会議の目的	3
2 検討事項	3
3 委員名簿	4
4 成果及び評価	5

III 実施事業

1 特別支援学校とスポーツ関係機関との連携による継続的なスポーツ参加促進 モデル構築事業	
（1）はじめに	6
（2）事業の目的	6
（3）事業の概要	6
（4）成果及び評価	7
2 障がい者スポーツ理解促進事業	
（1）はじめに	3 1
（2）事業の目的	3 1
（3）事業の概要	3 1
（4）成果及び評価	3 2
3 共創共楽スポーツ推進事業	
（1）事業の目的	3 7
（2）事業の実施概要	3 7
（3）取組内容	3 7
（4）実施の効果とあい路	4 3
（5）おわりに	4 4
4 ふれあいスイミング及び持久水泳認定会	
（1）事業の目的	4 5
（2）事業の概要	4 5
（3）事業の内容	4 5
（4）成果及び評価	5 5
（5）おわりに	5 5

I 障がい者スポーツ推進 プロジェクト

I 障がい者スポーツ推進プロジェクト

1 事業の目的

地域において継続的な障がい者スポーツの実施促進を進めるに当たっては、障がい者スポーツへの「参加機会の拡大」やそれに携わる「人材の育成」、さらには、「地域住民との交流」も含め、障がい者スポーツが「楽しいことを実感できる環境づくり」が重要である。

本県においては、平成27年度より、「地域における障害者スポーツ普及促進事業」に取り組み、障がい福祉部門、スポーツ振興部門、教育部門といった行政部局に加え、県内スポーツ関係者、障がい福祉関係者等が連携し、障がい者スポーツの普及促進に係る全県的な実行委員会を組織し、関係者間の「顔の見えるネットワーク体制づくり」を進めてきたところである。

これまでの成果を踏まえ、多角的な視点からの検討や、各団体が持つノウハウを活用しながら、生涯に亘るスポーツ活動の環境整備を目指し、新たな事業の展開と深化を図ることとした。

具体的には、「地域における障害者スポーツ実施環境整備のモデル構築」として、障がい者スポーツの普及促進を図るにあたっての課題に対応し、スポーツ活動の習慣化につなげるとともに、これまでの検証結果を生かした新たな展開を図りつつ、障がい者の視点に立ったモデル事業、障がい者スポーツの振興、さらには障がい者の自立と社会参加を促進していくことを目的とした。

2 実施事業の概要

(1)「徳島県障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会」の設置

(2) 事業内容

障がい者スポーツの「参加機会の増加」、「裾野の拡大」、「交流の活発化」を目指し、従来の「障がい福祉」からのアプローチのほか、スポーツ部局との連携やスポーツの持つ情報発信力と交流機能の活用といった視点から、以下の事業を実施した。

- ①特別支援学校とスポーツ関係機関との連携による継続的なスポーツ参加促進モデル構築事業
- ②障がい者スポーツ理解促進事業
- ③共創共楽スポーツ推進事業
- ④ふれあいスイミング及び持久水泳認定会

3 事業効果

これまで実施してきた事業を通して構築された連携体制やノウハウを生かしながら、障がい者スポーツ施策を効果的に進めることができ、身近な地域でスポーツを行う機会の提供、スポーツを通じた障がい者の健康増進、加えて、障がいのある人とない人との交流が深まり、障がい者スポーツへの理解が一層促進されるよう、共生社会の実現に向けて確実に歩みを進めているところである。

4 まとめと今後の課題

各事業において、継続的な障がい者スポーツの実施機会の提供や人材育成等を行うことで、学校や地域の総合型スポーツクラブ等において、障がい者スポーツの取り組みが定着してきている。加えて、県内の障がい者スポーツ競技団体に所属する障がい当事者が、障がいのない人へスポーツを教える機会も増加しており、支援される対象となる「障がい者」支援をする「健常者」といった従来の価値観の転換が起きている。こういった中、事業への参加者からは、「大変楽しかった」、「また参加したい」といった声をいただき、障がい者及び障がい者スポーツへの関心の高まりはもとより、地域を巻き込んだ障がいのある人とない人との交流も生まれ、共生社会の実現に前進している。

一方、身近な地域で継続的にスポーツ活動に取り組める環境づくりのためには、障がい者スポーツを実施できる拠点となる施設がない・指導者が不足しているといった対応策や生徒が学校で恒常的に障がい者スポーツを体験・学習できる環境を整備すること・生徒卒業後の受け皿を確保する、障がいのない人が障がい者スポーツの楽しさを実感し、障がい者とともに普及するといった好循環を創出していく必要性が高いと考えられる。

事業実施により抽出されたこれらの課題の共有し、それらの解決と新たな展開に向けて、障がい者スポーツの一層の普及促進を行っていききたい。

Ⅱ 実行委員会

Ⅱ 実行委員会

1 会議の目的

昨年度に引き続き、「徳島県障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会」を設置し、障がい者が、身近な地域でスポーツに参画できるよう、その障がいの種類及び程度に応じたスポーツ活動への参加の機会を提供し、生涯にわたって、スポーツに親しむことができる方策等について検討する。

2 検討事項

- ・ スポーツ関係者、障がい福祉関係者等が、各地域で連携、協働し、障がい者スポーツの普及啓発の方策を検討することができる体制の強化
- ・ 障がい者スポーツの普及啓発の方策等を検討し、事業の進行管理、事業成果の検証等を行い、障がい者スポーツ推進プログラムをまとめる。



3 委員名簿

区 分	所 属・職 名	氏 名	備 考
学識 経験者	徳島大学大学院教授	佐藤 充宏	委員長
	徳島文理大学教授	森泉 摩州子	
障がい 者当事 者団体	徳島県身体障害者連合会業務執行理事兼事務局長	塩見 一義	
	徳島県手をつなぐ育成会常務理事兼事務局長	福田 清	
スポー ツ関係 団体	徳島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長	新久保 眞度	
	徳島県スポーツ振興財団専務理事兼事務局長	並木 俊明	
	徳島県障がい者スポーツ協会次長	岡本 洋明	副委員長
行政職	徳島県県民環境部スポーツ振興課長	松本 光裕	
	徳島県保健福祉部障がい福祉課障がい者活躍推進室長	原内 孝子	
	徳島県教育委員会特別支援教育課長	猪子 秀太郎	
	徳島県教育委員会体育学校安全課長	林 日出夫	

4 成果及び評価

(1) 開催実績等

第1回 令和元年7月31日(水)

(議事)

- ・委員長及び副委員長の選任について
- ・2019年度「障がい者スポーツ推進プロジェクト」について

第2回 令和元年12月25日(水)

(議事)

- ・各事業の中間報告について

第3回 令和2年3月11日(水)

(議事)

- ・2019年度成果報告書(案)について
- ・令和2年度実施計画(案)について

(2) 評価

当該事業の実施にあたり、実行委員会を立ち上げたことで、関係者同士がネットワークを構築できており、障がい者スポーツへの取組みが、非常に円滑に推進された。

また、各事業実施主体が事業の情報を共有することによって、連携事業を開催したり、障がいのある人もない人も一緒になってスポーツを楽しむ機会の創出に繋げる等の展開が見られた。

Ⅲ 実施事業

Ⅲ－１ 特別支援学校とスポーツ関係機関との連携による継続的なスポーツ参加促進モデル構築事業 徳島県教育委員会特別支援教育課

1 はじめに

知的障がいのある人の余暇活動の重要性が指摘され、その中でもスポーツ活動は彼らのQOL（生活の質）を高めるといわれている。障がいのある児童生徒が早い時期に、スポーツを「知る」ことは重要であり、生徒の卒業後の余暇活動の充実につながる学齢期のスポーツ活動の取り組みが求められている。

県内の多くの特別支援学校では「体力づくり」としてマラソンが実践されたり、放課後活動でスポーツに取り組んだりしているところであり、近年は、ボッチャなどのパラスポーツにも関心が高まっている。障がいのある児童生徒が地域において、気軽に・楽しく・目標をもってスポーツを楽しむことができるよう、さまざまな活動に生かせる体づくりとしてコンディショニングの取り組みを行う。また、スポーツをとおして地域との交流を深められるよう、地域のスポーツ大会等への参加をめざして実践を行う。

2 事業の目的

- (1) 関係機関と連携し、特別支援学校での体育の授業や放課後の時間等に取り組むスポーツ活動に外部の専門家を派遣することにより、障がいのある子どもたちが、スポーツの競い合う楽しさや達成感の体得、健康な体づくり、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できる資質や能力の基盤等を育てるとともに、障がい者スポーツに関する教員の指導力の向上を図る。
- (2) 障がいのある子どもたちが地域のスポーツ大会や活動に参加するための合理的配慮等の条件整備について、総合型地域スポーツクラブ等の関係機関への意見聴取により、検討を行う。

3 事業の概要

1 特別支援学校でのスポーツスキルアップ

(1) 実施内容

「徳島県障がい者スポーツ協会」や「徳島県トレーナー協会」等、関係機関とのネットワークを活かし、特別支援学校に障がい者スポーツ指導員の資格を有するトレーナーを派遣し、いろいろなスポーツに対応できるコンディショニングの活動をとおして、子どもたちの障がい特性に応じたスポーツスキルを向上させ、スポーツを楽しむことの意識付けや、継続的なスポーツ活動の実施へとつなげる。

また、特別支援学校においてスポーツを指導する教員についても、専門家による指導方法を体得することで、児童生徒に対する日頃のスポーツ指導のスキル向上に活かす。

(2) 実施計画

- ① 場所：徳島県立国府支援学校，徳島県立阿南支援学校，徳島県立阿南支援学校ひわさ分校
徳島県立池田支援学校，徳島県立みなと高等学園
- ② 対象者：特別支援学校に通う児童生徒
- ③ 実施回数：指導者派遣を各校年間6回行う

2 障がいのある人がスポーツに参加できる条件整備の検討

(1) 実施内容

障がいのある児童生徒が、地域のスポーツクラブや地域で開催されているスポーツイベントに参加することにより、スポーツを通じた地域との交流のきっかけとするとともに、卒業後のスポーツ

活動につなげる。

また、障がいの有無にかかわらず、参加者が互いにスポーツを楽しみ、「心のバリアフリー」の推進につながるよう、スポーツクラブや大会主催者等と連携し、障がい者がスポーツ活動を行ううえで必要となる合理的配慮の在り方について、スポーツクラブや大会主催者への聴き取りや参加者へのアンケート実施等により、検討を行う。

(2) 実施計画

1 1月～ 総合型地域スポーツクラブへの聴き取りとスポーツ大会参加者へのアンケート実施

4 成果及び評価

1 特別支援学校でのスポーツスキルアップ

県内特別支援学校5校で取り組んだスポーツスキルアップについての各学校からの報告は、以下のとおりである。

(1) 国府支援学校

① 学校のプロフィール

国府支援学校は、徳島市西部の閑静な穀倉地帯に位置する知的障がいのある児童生徒を対象とした特別支援学校である。児童生徒の障がいの状態は重度化、多様化してきているが、一人一人の可能性を最大限に伸ばし、社会自立できることを目標にして、小学部86名、中学部82名、高等部119名、計287名の教育を行っている。隣接の障害児入所施設未来から44名、寄宿舎から14名、スクールバスなどで自宅から229名が通学している。

学校教育目標を「児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、自ら生きる力を養い、社会的に自立できる、心身ともに豊かな人間を育成する」とし、4つの「生きる力」を掲げている。4つの「生きる力」とは「生活する力」「豊かな心にする力」「健やかな体にする力」「自立する力」であり、各学部、寄宿舎の目標として位置づけ、個々の児童生徒の実態や興味関心に応じた指導を行っている。

今回の対象生徒は、中学部については地域のマラソン大会に参加する生徒とスポーツクラブに所属する生徒、高等部については体力作りの授業でロード班に所属している生徒とした。

② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
令和元年 10月21日（月） 15：00～16：00	1 外部講師によるランニング指導（中学部） ・講師：ピラティスアンドコンディショニンググライズ 吉成侑弥氏 ・場所：国府支援学校体育館 ・内容：11月17日に開催される「神山温泉すだちマラソン」に参加する生徒およびスポーツクラブ参加生徒を対象に楽しみながら取り組むことができる活動について指導助言を受けた。 ① 準備体操 ② 高這いの姿勢で両手を交互に動かして進む→腕立ての姿勢になったら両脚を交互に動かして進む→繰り返して15mほど行う。 ③ 高這いで15m進む ④-1 並べたコーンの間をジグザクに走る（歩く） ④-2 マットの上に膝立ちになって歩く ④-3 ミニハードルを両脚ジャンプで跳びながら進む	中学部スポーツクラブ・マラソン大会参加者 28名



	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ コーンを円形に並べてその周囲を走ってリレーする ⑥ 整理体操 	
<p>令和元年 10月28日（月） 15：00～16：00</p>	<p>2 外部講師によるランニング指導（中学部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：ピラティスアンドコンディショニングリライズ 吉成侑弥氏 ・場所：国府支援学校グラウンド ・内容：マラソン大会参加生徒を対象に楽しく取り組むことができる練習内容について紹介していただいた。 <ul style="list-style-type: none"> ① 準備体操 ② 鬼ごっこ（2人1組なり手をつないで逃げ，教員が鬼になる） ③-1 ラダー ③-2 ミニハードル ④ 8の字リレー（コーンを8の字に置き，周囲を走りリレーする） ⑤ 整理体操 	<p>中学部マラソン大会参加生徒 12名</p>
<p>令和元年 11月11日（月） 15：00～16：00</p>	<p>3 外部講師によるランニング指導（中学部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：ピラティスアンドコンディショニングリライズ 吉成侑弥氏 ・場所：国府支援学校グラウンド ・内容：マラソン大会に向けて活動量を増やした練習について紹介していただいた。 <ul style="list-style-type: none"> ① 準備体操 ② しっぽ取り（ビブスを腰に付けておこなう） 1回目 個人戦 2回目 鬼が2人1組で手をつないで行う ③-1 ラダー ③-2 ミニハードル ④ リレー（ゼッケンをバトンにして行う） ⑤ 整理体操 	<p>中学部スポーツクラブ・マラソン大会参加者 25名</p>
<p>令和元年 11月17日（日）神山温泉すだちマラソン当日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場所：神山町民グラウンド ・結果：3kmの部に中学部1年生3名，2年生1名，3年生10名が出場した。全員が完走し，30分の制限時間内に13名がゴールすることができた。全員，普段の練習の成果を発揮することができ，4名の生徒が自己ベスト記録を更新することができた。 	<p>中学部マラソン大会参加生徒 14名</p>



<p>令和元年 11月26日 (火) 9:30~10:30</p>	<p>4 外部講師によるランニング指導 (高等部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師: CONDITIONING STUDIO ACHIEVE 加藤達也氏 ・場所: 国府支援学校 体育館 ・内容: 高等部ロード班に所属している生徒を対象に、バランスの良い走法で走るための指導助言を受けた。ストレッチ後に、体幹トレーニング、バランスのトレーニング、ミニハードルとラダーを使ったトレーニング、ゲーム性を持たせたコーンバーくぐりを行った。体幹トレーニングでは、意識を体幹に向け、腹圧を高めることについて説明があった。ミニハードルやラダーを使ったトレーニングでは、ミニハードルは高さを、ラダーは枠の中に正確に足を入れるなど、指導のポイントについて助言して頂いた。同じ動きの中でもポイントの違いを意識することで、生徒の動きが変わっていく様子が見られた。加藤講師の声かけや分かりやすい説明で、生徒は終始活発に活動することができた。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ストレッチ ② 仰向けになり、膝を立てて「アー」と声を出し続ける 10秒×1回, 15秒×1回 ③ ダンゴムシのポーズで姿勢を保つ。手で足を持たない 10秒×3回 ④ スーパーマンのポーズで姿勢を保つ 10秒×3回 ⑤ とかげのポーズ右 右手親指を見る, 右手を開く, 親指を見ながら首を横に回す。 同時に左手の肘と左足の膝をくっつける ×10回 ⑥ とかげのポーズ左 左手親指を見る, 左手を開く, 親指を見ながら首を横に回す。 同時に右手の肘と右足の膝をくっつける ×10回 <p>○ミニハードル5台</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑦ 前向き両足ジャンプで飛び越える ×2回 ⑧ 横向き両足ジャンプで飛び越える 右×1回, 左×1回 ⑨ 横向きで180度方向転換しながら飛び越える ×2回 <p>○ラダー</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑩ 前向き両足ジャンプで飛び越える ×2回 ⑪ 横向き両足ジャンプで飛び越える 右×1回, 左×1回 ⑫ 横向きで180度方向転換しながら飛び越える ×2回 <p>※2グループでミニハードルとラダーを交代して行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑬ コーンバーくぐり 同色の2つのカラーコーンにコーンバーをつけ, 方向や場所をランダムに設置する (3色×2, 6カ所) 指導者から指定のあった色のバーをくぐって戻ってくる 「青」「白」や「白」「緑」「青」と複数の色を指定された場合は順番通りにくぐって戻ってくる 	<p>高等部ロード班 38名</p>
		

<p>令和元年 11月28日（木） 9：30～10：30</p>	<p>5 外部講師によるランニング指導（高等部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：ピラティスアンドコンディショニング リライズ 吉成侑弥氏 ・場所：国府支援学校 体育館 ・内容：高等部ロード班に所属している生徒を対象に、バランスの良い走法で走るための指導助言を受けた。体育館を2周走り、股関節を中心にストレッチを行った後に、トレーニングへと移行した。体の硬い生徒が多く、立ったままつま先を触ったり、膝を伸ばしたまま尺取り虫のように動くメニューでは、うまく動けないこともあった。ミニハードルを使ったジャンプからのダッシュや、起き上がってから走るメニューは、テンポが早く、息が上がる生徒も多かった。柔軟性を高めていくことで、体の使い方がスムーズになり、バランスの良い走法に繋がるということを助言して頂いた。また、最後のリレー形式のトレーニングでは、体幹を強くすることで、安定して速いスピードを保ったまま走れるようになるという説明があった。強度の高い運動もあったが、生徒は元気よく取り組むことができた。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 2周走る ② ストレッチ ③ 立位から膝を曲げずにつま先を触り、腕立て伏せの体勢になり、3回腕立て伏せをして、元の立位に戻る ×5回 ④ 長座の姿勢からおしりだけで前進する 8m×1回 ⑤ 尺取り虫の動き（4足歩行）前進 膝を曲げずに手だけ動かす、手を動かさずに足だけ動かす 15m×1回 ⑥ 尺取り虫の動き（4足歩行）後退 膝を曲げずに手だけ動かす、手を動かさずに足だけ動かす 15m×1回 ⑦ 両手を広げる、片足立ち、前傾する、元に戻る（上半身を床と平行に）右足軸で×5回、左足軸で×5回 <p>○ミニハードル3台</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑧ 両足ジャンプ3回、走ってコーンを回ってくる 4回 ⑨ 片足ジャンプ3回、走ってコーンを回ってくる 左右×2回 ⑩ ミニハードルを走り抜け、コーンを回ってくる 4回 <p>○コーンのみ それぞれ1回ずつ</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑪ うつ伏せ、起き上がって、走ってコーンを回ってくる ⑫ 仰向け、起き上がって、走ってコーンを回ってくる ⑬ 後ろ向き開脚座り、起き上がって走ってコーンを回ってくる <p>○マーカーコーンで円形をつくる</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑭ 2班に分かれリレー形式で1人が1周走る、できるだけマーカーコーンの近くを走る 	<p>高等部ロード班 39名</p>
--	--	------------------------



<p>令和元年 12月3日（火） 9：30～10：30</p>	<p>6 外部講師によるランニング指導（高等部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：CONDITIONING STUDIO ACHIEVE 加藤達也氏 ・場所：国府支援学校 体育館 ・内容：高等部ロード班に所属している生徒を対象に、バランスの良い走法で走るための指導助言を受けた。ストレッチ後に、体幹トレーニング、バランスのトレーニング、ボールやミニハードルを使ったトレーニングを行った。体幹トレーニングでは、両手、両足をうまく連動させるようにと助言があった。また、バランス良く動けるように、焦らず、ゆっくりと体を動かすことがポイントであると指導して頂いた。生徒がお互いに声を掛け合いながら取り組む様子が見られるなど、動きのポイントがわかりやすかった。生徒も加藤講師に積極的に話しかけるなど、明るい雰囲気の中で指導を受けることができた。 <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ストレッチ ②仰向けになり、膝を立てて「アー」と声を出し続ける 10秒×1回、15秒×1回、20秒×1回 ③ダンゴムシのポーズで姿勢を保つ。手で足を持たない 10秒×5回 ④スーパーマンのポーズで姿勢を保つ 10秒×5回 ⑤とかげのポーズ右 右手親指を見る、右手を開く、親指を見ながら首を横に回す。 同時に左手の肘と左足の膝をくっつける ×10回 ⑥とかげのポーズ左 左手親指を見る、左手を開く、親指を見ながら首を横に回す。 同時に右手の肘と右足の膝をくっつける ×10回 ⑦両手を広げる、片足立ち（右）10秒×1回 ⑧両手を広げる、片足立ち（左）10秒×1回 ⑨両手を広げる、片足立ち（右）目を閉じる 10秒×1回 ⑩両手を広げる、片足立ち（左）目を閉じる 10秒×1回 ⑪尺取り虫の動き（4足歩行）前進 膝を曲げずに手だけ動かす、手を動かさずに足だけ動かす ⑫上向き4足歩行 ⑬はいはい、膝は曲げて少しだけ浮かせる ⑭ランジ前進、ボールを足の間に通す ⑮ランジ後退、ボールを足の間に通す ⑯フリスビーにボールを乗せて歩く、コーンを回ってくる ⑰フリスビーにボールを乗せて歩く、4種類のミニハードルを越えながら、コーンを回ってくる（中一～高一） <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px;">   </div>	<p>高等部ロード班 35名</p>
---	---	------------------------

③ 活動の成果

a 中学部

走るために必要な基本動作を習得するためのメニューを教わった。どの活動もゲーム性があり、生徒たちも楽しく取り組むことができた。最初はぎこちなかった動きも回数を重ねるうちに、段々とスムーズに動くことができるようになり、歩幅が大きくなる等、走り方にも変化が現れてくるようになった。目標としていたマラソン大会では、自己ベストを更新した生徒は4名であったが、自己ベストに迫る好記録で完走した生徒も多数いて、完走の達成感を味わうことができた。

今回指導を受けた内容は、特に特別な用具を必要としない内容であったので、普段の授業や部活動でも取り入れやすい。また、工夫をしながら発展的な活動となるように今後も取り組んでいきたい。

b 高等部

バランスの良い走法で走るための指導を受けた。昨年度より、体幹を意識したトレーニングを継続して受けているので、生徒の口から「体幹を鍛える」という言葉が出るようになってきていることは大きな成果である。また、日々の生活の中でも行えるトレーニングが多く、自主的に行う生徒も増えている。今回のプロジェクトでは、簡単な動きから上肢と下肢が連動する動きに移っていくことで生徒の苦手意識がなくなることや、柔軟性に重点を置いたトレーニングの必要性について学ぶことができた。また覚えやすい名前をつけたトレーニングで、生徒の意欲が高まる様子を見ることができた。

④ 今後の課題

a 中学部

今回指導を受けた内容は「楽しく取り組むことができる活動」であり、マラソン大会出場経験があまりない生徒にとって、適切な良い内容だった。しかし、マラソン大会のコースには坂のアップダウンがあり、普段の練習はグラウンドの平地で行っているため、そこに対応できていなかったことが反省である。3年生は経験も積み、走力も上がったきたので、坂の走り方のコツやもう少しレベルを上げた練習の指導を受けていくことが今後の課題である。

b 高等部

体力作りの授業で、ロード班は3km走を活動のメインにし、校外のコースを走っている。雨天時や、持久走に適さない気候の際にトレーニングを実施しているが、定期的に体幹トレーニングや柔軟性を高める運動ができていないことが課題である。指導して頂いた内容を生かすためにも、走る前や、走った後にトレーニングを実施できる時間を確保していきたい。また、各学年で実施しているスポーツの授業でも、トレーニングを取り入れられるようにしていきたい。

(2) 徳島県立阿南支援支援学校

① 学校のプロフィール

阿南支援学校は、徳島県南の阿南市上大野町と吉井町との境にある阿南市内を一望できる城山の中腹に位置し、近くには「阿南西部公園」も設置され、野鳥の鳴き声が聞こえてくる豊かな自然に囲まれた環境の中にある。JR 阿南駅から約10km 離れ、路線バスの便数も少なく、学校下の長い坂道を上って自転車で通学する生徒もいるが、児童生徒が一人で通学するには不便な場所にある。

本校は知的障がいのある児童生徒を対象とした特別支援学校であり、令和元年度は小学部32名、中学部38名、高等部57名の計127名が在籍している。小・中学部については、地元の学校への就学志向が見られるが、障がい児への専門的な教育を希望し本校へ入学する者も多い。高等部については、普通科と生活科学科と産業工芸科を設置し、将来の社会（就業）自立・参加への期待も大きく、広い地域からの入学希望者がある。

児童生徒の運動課題として、基礎的な身体の動きを身につけること、体力づくり（筋力・持久力の向上、体幹強化、身体のバランス力を高めるなど）、肥満防止とたくさんあげることができる。日頃から運動する習慣をつけ、正確な身体の動きを身につけていろいろな力の向上へつなげていく

いと考えて取り組んだ。また、今回中学部では地域の駅伝大会に参加することを目標にした。

② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
令和元年 10月31日（木） 9:50～10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師：ピラティスアドバイザー 吉成侑弥 氏 ・ 場所：阿南支援学校視聴覚室 ・ 内容 <ul style="list-style-type: none"> ① 講師紹介 ② 準備運動（ストレッチ） ③ バランスボールを活用した体遊び ④ ボール投げ（玉入れの紅白玉を使用） ⑤ バランスクッションに乗っての体遊び ⑥ ③～⑤ を使ったサーキットトレーニング <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>準備体操</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>バランスボール</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>サーキット</p> </div>	小学部 （小学4, 6年生 4名）
令和元年 11月11日（月） 10:40～11:20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師：ピラティスアドバイザー 吉成侑弥 氏 ・ 場所：阿南支援学校体育館 ・ 内容 <ul style="list-style-type: none"> ① 講師紹介 ② 準備運動（ストレッチ） ③ ランニング ④ 身体の使い方を意識した動き（手足の協応） ⑤ グループに分かれて <ul style="list-style-type: none"> ・ ラダーを使った動き ・ 腕の振りを意識した動き（マットの上を腕を振って歩く） ・ 足の上がり意識した動き（ミニハードル使用） <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>体幹ストレッチ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>手足の協応</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>ラダー・マット・ミニハードルを使用して ⑥ 整理運動</p> </div>	中学部 ABグループ20名 （男子10名、女子10名）

<p>令和元年 12月11日（水） 10:40～11:20</p>	<p>・講師：ピラティスアンドコンディショニングセラピスト 吉成侑弥 氏 ・場所：阿南支援学校運動場 ・内容 ①準備運動（ストレッチ） ②ランニング ③身体の使い方を意識した動き（手足の協応） ④コーンとラダーを使った足の動き</p>  <p>⑤手つなぎ鬼</p>  <p>（3人組） （2人組）</p> <p>⑥整理運動</p>	<p>中学部 ABグループ16名 （男子8名，女子8名）</p>
<p>令和元年 12月20日（金） 10:40～11:20</p>	<p>・講師：ピラティスアンドコンディショニングセラピスト 吉成侑弥 氏 ・場所：阿南支援学校運動場 ・内容 ①準備運動（ストレッチ） ②ランニング ③身体の使い方を意識した動き（手足の協応） ④ラダーを使った足の動き ⑤コーンを使ってジグザグ走</p>  <p>⑥しっぽ取り</p>  <p>⑦整理運動</p>	<p>中学部 ABグループ17名 （男子10名，女子7名）</p>
<p>令和2年 1月17日（金） 10:40～11:20</p>	<p>・講師：ピラティスアンドコンディショニングセラピスト 吉成侑弥 氏 ・場所：阿南支援学校体育館 ・内容 ①準備運動（ストレッチ） ②ランニング ③身体の使い方を意識した動き ・手足の協応 ・体幹を使った動き</p>	<p>中学部 ABグループ16名 （男子9名，女子7名）</p>

	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">かえる跳び おしり歩き</p> <p>④12分間走</p>  <p>⑤グループに分かれて 襻りレーの練習</p>  <p>⑥整理運動</p>	
<p>令和2年 1月24日（金） 10:40～11:20</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：ヒラテイスアント・コンテ・イシヨング・リライズ 吉成侑弥 氏 ・場所：阿南支援学校 運動場・校舎外周 ・内容 <ul style="list-style-type: none"> ①準備運動（ストレッチ） ②ランニング ③身体の使い方を意識した動き ④襻りレーの練習 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>⑤駅伝（4チームに分かれて一人1000mのコースで実践練習）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>⑥整理運動</p>	<p>中学部 ABグループ16 名＋加茂谷駅伝 参加のCグループ 生徒3名（男子1 2名，女子7名）</p>

③ 活動の成果

【小学部】

バランスボールや紅白玉などを使用した運動を行った。はじめは紅白玉をカゴに入れることが難しかった児童もいたが、トレーナーの指導を受け、徐々に正確にカゴに入れることができるようになるなど、それぞれの活動で成果が大きく見られた。

教員も普段とは違った指導方法を受け、今後の指導に生かす方法を身につけることができた。

児童たちもトレーナーの言葉かけを受け、楽しみながら笑顔で体を動かすことができた。児童たち

にとって普段行わないような運動や人とのかかわりができ、有意義な時間となった。

【中学部】

中学部では、日常生活指導の朝の体力作りや体育の授業の中で生徒の体の動かし方を見て、ランニングフォームや体の部位の使い方から改善すべきであると感じた。日常的な動きもぎこちない動きであったりバランスを崩したりしてしまい、体幹の弱い生徒が多いことから今年度もスポーツスキルアップ事業で専門的な指導をいただくこととなった。トレーナーの吉成先生は、昨年に引き続き講師として来てくださったので、生徒たちもすぐに打ち解けてリラックスして授業に取り組むことができた。

中学部では5回指導をいただき、ストレッチを中心とした準備運動や体幹を鍛える体づくり運動、ラダーやコーンを使った足の運びなどを教わった。体の動かし方が苦手な生徒が多く、指示された体の部位を思うように動かすことの難しさを痛感しているようだった。個々に言葉かけをしながら、丁寧に指導してくださったことで、苦手だった動きがだんだんとできるようになっていった。

また中学部では、今年も校内駅伝大会開催と地域の駅伝大会参加を決めていたため、タイムトライアルや駅伝の実践を取り入れてくださり、生徒たちは大会を意識して取り組むことができた。1月26日（日）には加茂谷駅伝競走大会に中学部から15名3チームがエントリーして出場し、Aチームがオープンの部で2位となった。2月3日（月）には中学部全員参加の校内駅伝大会を行い、ほとんどの生徒が昨年より長い距離に挑戦し襷を繋いだ。トレーナーの吉成先生に教わったことや日頃からのランニングの積み重ねから、生徒一人一人が持っている力を十分に発揮し、達成感を感じることができた。



第45回加茂谷駅伝競走大会にて

④ 今後の課題

【小学部】

児童の発達段階によって、活動の内容が難しい部分があった児童もいた。トレーナーとは事前打ち合わせを今回以上に綿密に行うことや、参加児童の実態を事前に伝え時間をとり児童の姿を見てもらうことを行っていく必要があると考える。今回、参加した児童だけでなくより多くの児童にとってこのような機会をもつことは必要であり、多くの児童が参加できるような内容を綿密に打ち合わせることも必要である。

【中学部】

中学部では、運動能力や身体機能を考慮して4グループに分かれて体育の授業を実施している。今年も比較的運動能力や体力などが高い2グループの生徒を対象としたが、最終日には地域の駅伝大会に出場する生徒も参加し、専門的な指導を受けることでいい刺激と貴重な体験をすることができた実感している。教員としては、外部講師から指導や助言をいただいたことを、中学部全体の持久力や筋力の保持増進と体力の向上に繋げていくために、参加できなかった生徒にも日頃の体力づくりや体育の授業で積極的に取り入れて指導していきたいと考えている。

今後も中学部の校内駅伝大会の開催や加茂谷駅伝競走大会への参加を継続していきたい。そして運動する機会をますます増やし、いろいろなスポーツに携わる機会を設けていきたい。生徒には、スポーツを通して同年代の子どもや地域との交流を図ることを目指してほしい。

(3) みなと高等学園

① 学校のプロフィール

本校は、高等学校段階の病弱又は知的障がいを伴う発達障がいの生徒を対象とした特別支援学校である。発達障がい者を対象とした学校は全国初であり、2012年4月に開校した。現在、陸上競技部の

部員数は6名である。陸上部には学校の中でも運動能力がトップクラスの生徒が 毎年のように在籍しており、スポーツテストでも校内の上位を占めている。競技レベルの高い生徒（部員）は、 県高等学校新人陸上競技大会や各種の陸上競技会に参加している。全国障害者スポーツ大会には、 毎年代表として選ばれ、入賞やメダルを獲得をすることができている。

② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
令和元年 10月31日(木) 16:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：鍼灸マッサージ治療院 すえひろ堂 永井 明人 氏 ・場所：みなと高等学園グラウンド ・内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ， ウインドスプリント ・アライメントチェック（測定） <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・体幹トレーニング（指導） <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>	生徒(部員)4名
令和元年 11月28日(木) 16:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：鍼灸マッサージ治療院 すえひろ堂 永井 明人 氏 ・場所：みなと高等学園体育館 ・内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ ・ウォーミングアップ（指導） <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・柔軟性向上トレーニング（指導） <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>	生徒(部員)5名
令和元年 12月12日(木) 16:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：鍼灸マッサージ治療院 すえひろ堂 永井 明人 氏 ・場所：みなと高等学園グラウンド ・内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ， ウインドスプリント 	生徒(部員)5名

	<ul style="list-style-type: none"> ・走トレーニング（指導）  <ul style="list-style-type: none"> ・脚トレーニング（指導） 	
<p>令和元年 12月24日(火) 16:00～17:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：鍼灸マッサージ治療院 すえひろ堂 永井 明人 氏 ・場所：みなと高等学園体育館 ・内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ ・アジリティトレーニング ・柔軟性向上トレーニング 	<p>生徒(部員)4名</p>
<p>令和2年 1月16日(木) 16:00～17:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：鍼灸マッサージ治療院 すえひろ堂 永井 明人 氏 ・場所：みなと高等学園グラウンド，体育館 ・内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ，ウインドスプリント ・走トレーニング（長距離走1500m） ・アジリティトレーニング（指導） <p>トレーニング機器を使用してしての練習</p> 	<p>生徒(部員)5名</p>



③ 活動の成果

アライメントチェックでは、個々の生徒（部員）の身体的特徴や動きの癖が分かり、適切な対処方法について指導を受け、各自が実践する事で体力の向上と障がいの予防につなげることができた。

生徒（部員）のほとんどが扁平足であることが判明し、シューズのサイズやタイプの選び方を知り教えて頂いた。シューズに対する意識を改善することで記録が向上し、自分に合ったサイズのシューズに替えることによっても、記録が向上することが理解できた。

今回の事業では、競技力の向上だけでなく、教員以外の専門家から自分の体や動きなどについて指導頂くことにより新しい発見や知識理解が進み、これからもスポーツを継続する喜びやこれからの部活動に対する意欲の向上が見られることとなった。

④ 今後の課題

障がい者スポーツにおいても、今回の事業のように外部から専門的知識を持った方を招聘し、指導を行うことで、自己の見識を深めより高い目標を持ってスポーツに取り組むことができるようになると思われる。生徒（選手）の多様なニーズに応え、それに応じた指導者を配置できるような制度の構築が必要である。

（4）池田支援学校

① 学校のプロフィール

池田支援学校は、三好市池田町東北部の山あい位置する知的障がいのある児童生徒を対象とした特別支援学校である。学校周辺には多くの福祉施設があり、地域一帯が『箸蔵福祉村』と呼ばれている。平成31年度は小学部30名、中学部21名、高等部39名、計90名が在籍している。

現在、バスケットボールクラブには、13名在籍し、最後までやり抜くたくましい心を育てることや友情を深めて思いやりの心を育てることをねらいとして活動している。

② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
令和元年 10月29日（火） 15:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：池田高等学校 松田初恵氏、池田中学校 徳善咲紀氏 ・場所：池田支援学校体育館 ・内容：ウォーミングアップ、ボールハンドリング、シュート練習、ゲームなど、普段行っている練習の様子を見ていただき、随時生徒への指導、助言をいただいた。 ①講師紹介・自己紹介 ②ウォーミングアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ランニング・動的ストレッチを中心に行った。 ・動的ストレッチの際にボールを使用するストレッチを取り入れることでボールに触れる時間が増え、ハンドリングの練習にもなると指導助言をいただいた。 ③ボールハンドリング <ul style="list-style-type: none"> ・その場でのドリブル練習を行った。 ・ドリブルの際には周りを見るために、上体を起こして、顔を上げるようにと指導していただき、多くの部員が意識し 	バスケットボールクラブ9名

て取り組むことができた。



<ウォーミングアップ>



<ボールハンドリング>

④シュート練習

- ・ランニングシュートとフリースローを行った。
- ・細かいところまで丁寧に指導していただき、シュートのポイントを意識することができた。

⑤ゲーム

- ・フルコートでのゲームを行った。
- ・審判をしていただくことで、より実践に近い雰囲気で行うことができた。また部員たちにとって良い刺激になり、はつらつとプレーすることができた。



<シュート練習>



<ゲーム>

令和元年
12月10日(火)
15:00~16:00

- ・講師：池田高等学校 松田初恵氏，池田中学校 徳善咲紀氏
- ・場所：池田支援学校体育館
- ・内容：ドリブルをテーマに練習を組んでいただき指導，助言をいただいた。

①ウォーミングアップ

- ・ランニング・動的ストレッチを中心に行った。
- ・動的ストレッチの正しいフォームを教えていただき、フォームを意識することでよりストレッチの効果が上がることを教えていただいた。

②しっぽ取り鬼ごっこ

- ・ゼッケンでしっぽを作り，取られないようにドリブルで逃げた。鬼もドリブルしながら追いかけて，しっぽを取られた人は鬼になり，最後の1人になるまで行った。
- ・前回教えていただいた「ドリブルの際には周りを見るために，上体を起こして，顔を上げる」ということをこの練習を行うことで，自然に生徒たちは行うことができた。また楽しみながら技術を向上することができた。

③ボールハンドリング（ボールを1人2個）

- (1)両手で同時にドリブル
- (2)動きながら両手で同時にドリブル
- (3)両手で交互にドリブル
- (4)動きながら両手で交互にドリブル

- ・両手で同じ強さでドリブルしたり，うまくボールコントロール

バスケットボールクラブ7名

ールするのが難しく悪戦苦闘していたが、できるようにとても集中して取り組み、ほとんどの生徒が概ねできるようになった。

- ・いつも行っている練習とは違う新しい刺激のある練習で生徒たちは興味を持って取り組むことができた。



<しっぽ取り鬼ごっこ>



<ボールハンドリング>

④ドリブルシュート

- ・大小2つのコーンを横に並べて3か所に設置し、コーンを3回交わしてからレイアップシュートを行った。
- ・大コーンに向かって速くドリブルを行い、並べて置いてある小コーンをリズムを変えて交わすようにと説明とデモンストレーションをしていただき、生徒たちはよく見て意識して取り組むことができた。
- ・いつも行っているドリブルシュートでは、ただ真っすぐゴールに速く向かうだけなので、速いドリブルから急停止したり、横にスライドするようなゆっくりなドリブルやゆっくりなドリブルから速いドリブルなど、いろいろな方向にドリブルしたり、様々なスピードやリズムのドリブルが1つの練習に組み込まれており、実践により近いドリブル技術を習得することができた。

⑤ゲーム

- ・フルコートでのゲームを行った。
- ・今日練習したドリブルを意識するようにゲームの前に確認しゲームを行った。
- ・練習したドリブルの成果を所々発揮することができ、短時間の練習だが成長を感じることができた。



<ドリブルシュート>



<ゲーム>

令和元年
12月19日(木)
15:00~16:00

- ・講師：池田高等学校 松田初恵氏，池田中学校 徳善咲紀氏
- ・場所：池田支援学校体育館
- ・内容：パスをテーマに練習を組んでいただき指導，助言をいただいた。

①ウォーミングアップ

バスケットボールクラブ8名

・ランニング・動的ストレッチを中心に行った。

②対面パス

(1)チェストパス

(2)バウンズパス

・2人組になって、パス練習を行った。投げる時のフォームや相手を取りやすいところに投げることが大事だと指導を受けた。ボールを受ける方も、しっかりキャッチできるようにまた突き指をしないように手はボールの形を作るようにと指導を受けた。

・バウンズパスではいつ使えば有効か生徒に考えさせながら指導していた。ただ教えるだけでなく、子どもたちが答えを見つけられるように指導しており、伝え方を工夫していた。

③ツーメンパス

・フリースローレーンの幅を利用して、2人でゴールまで動きながらパスを行い、シュートする練習を行った。対面パスと同じように取りやすいところに投げように指導を受けた。何度か練習するうちにパス交換をしてスムーズにシュートできるようになった。

④2対1

・ツーメンを発展させて1人ディフェンスを入れて行った。
・ディフェンスが守っていないところにパスを出すようにと指導を受け、生徒たちはどこにパスすれば取られないか考えながらパス交換し、シュートまで行った。
・ディフェンスの脇をバウンズパスしたり、頭上を越えるようなパスをしたり工夫しながらプレーすることができた。

⑤ゲーム

・フルコートでのゲームを行った。
・今日練習したパスを意識するようにゲームの前に確認しゲームを行った。
・練習したパスを試合の中でチャレンジすることができていた。成功回数も増えてきていたので練習を重ね、学んだことを定着できるように練習していきたい。



<対面パス>



<2対1>

令和2年
1月9日(木)
15:00~16:00

・講師：池田高等学校 松田初恵氏，池田中学校 徳善咲紀氏
・場所：池田支援学校体育館
・内容：パス・ドリブルをテーマに練習を組んでいただき指導，助言をいただいた。
①ウォーミングアップ

バスケットボールクラブ9名

- ・ランニング・動的ストレッチを中心に行った。
- ②ドリブルシュート
 - ・エンドラインからフリースローのライン上をドリブルしてレイアップシュートを行った。バックボードの黒い枠を狙ってシュートすると入りやすいと指導を受けた。またリングの下にボールが当たらないように踏み切り位置をリングから離すようにアドバイスを受けて、多くの生徒が意識して実践し、修正することができた。
- ③ツーマン
 - ・前回行っていたので取りやすいところにパスすることや、少し前方にパスすることを意識してスムーズにパスすることができていた。パスする味方の方ばかり見るのではなくゴールやディフェンスを見るために体や顔の向きを意識するように指導を受け、できるように何度も練習を行った。
- ④2対1
 - ・前回同様ディフェンスの脇をバウンズパスしたり、頭上を越えるようなパスをしたりディフェンスが守っていないところにパスを出すように考えながら練習することができた。
- ⑤ゲーム
 - ・フルコートでのゲームを行った。
 - ・前回・今回とパスの練習を行っていたので、ディフェンスや味方の位置を良く見て、パスをつなごうとする場面を多く見ることができた。



<ドリブルシュート>



<2対1>

令和2年
1月16日(木)
15:00~16:00

- ・講師：池田高等学校 松田初恵氏，池田中学校 徳善咲紀氏
- ・場所：池田支援学校体育館
- ・内容：パス・ドリブルをテーマに練習を組んでいただき指導，助言をいただいた。

- ①ウォーミングアップ
 - ・ランニング・動的ストレッチを中心に行った。
- ②対面パス
 - (1)チェストパス
 - (2)バウンズパス
 - ・投げる時のフォームや相手を取りやすいところに投げることを意識しながらパスすることができた。
- ③三角パス
 - ・三角形にマーカーを置いて3人程度それぞれのマーカーに並び、パス出した方向に並ぶ練習を右回りと左回りで行った。慣れてきたら、次はパスを出した方向と逆のマーカーに並ぶように発展させた。初めてする練習に最初

バスケットボールクラブ8名

は戸惑い、並ぶところを間違えることもあったが、慣れてくるとパスを出したら動くことと次動く場所をしっかりと考えて動き、スムーズにパスできるようになった。

④ ツーメンパス（片側サイド）

- ・片側サイドで2人でパス交換をしてレイアップシュートを行った。ボールの出し手は取りやすいボールを投げることで、ボールの受け手はボールを欲しいタイミングでボールを呼び込むことを意識して取り組んだ。

⑤ ゲーム

- ・フルコートでのゲームを行った。
- ・これまで練習してきたパスやドリブルをうまく織り交ぜながら攻撃することができていた。またパスを受けるためにマークをはがしてフリーになろうとする選手が多くなってきていた。



<三角パス>



<ツーメンパス>

③ 活動の成果

専門の指導者の方に教えて頂くことで、子どもたちの良い刺激になり、技術の向上だけでなく、練習に取り組む姿勢も向上させることができた。最初は緊張していた生徒たちだったが、指導者の方が優しく丁寧に楽しく教えてくださり、良い雰囲気での練習をすることができた。これまでなんとなくやっていたドリブルやパスも細かく指導をしてくださったので、どうすればうまくいくのか、なんでそうすればいいのかを理解して生徒たちは取り組むことができた。また教員にとっても練習方法や練習計画の組み立て方、伝え方、雰囲気の作り方等、学ぶことが多かった。この取り組みの後の交流試合は、これまでの練習の成果を感じることができる試合になった。練習してきたパスでの連携プレーや粘り強い守備等、それぞれが自分の力を発揮し、勝利を目指してプレーすることができていた。

④ 今後の課題

今回教えていただいたことを単発で終わらせるのではなく、継続して指導して定着を図りながら、さらに課題を見つけ発展させていくことが必要である。そのために教員間で話し合いや情報共有を行い、練習方法や練習計画を組み立てていきたい。また次年度にもしっかりと引き継ぎを行い、指導体制を構築して継続的に指導できるようにする必要がある。さらにこの取り組みや交流試合を通して、技術向上だけでなく、挨拶や返事をするや準備や片付けを率先して行動できること等、社会に出たときに必要な力をスポーツを通して身につけることができるようにしていくこともより一層必要だと感じた。

(5) 阿南支援学校ひわさ分校

① 学校のプロフィール

阿南支援学校ひわさ分校は、美波町を一望できる山際に位置し、近くには四国霊場23番札所薬王寺、ウミガメの上陸地で知られる大浜海岸、南阿波サンラインなどがあり、温かな気候と相まって恵まれた自然環境の中にあるが、路線バス、JRともに便数が少なく、交通の便は不便なところにある。

本校は、知的障がいのある児童生徒を対象とした特別支援学校であり、今年度は小学部1名、中学部3名、高等部9名の計13名が在籍し、自宅からの通学生と隣接する「障がい者地域生活自立支援センター」からの通学生がいる。

児童生徒の運動課題は体力づくりであり、運動する習慣をつけ、卒業後も利用施設等で活動することの考えられる「ボッチャ」を体験することにより、余暇活動や地域スポーツへの参加につなげていくことである。

② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
令和元年 11月25日（月） 14:00～14:45	<p>第1回ボッチャ教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：徳島県ボッチャ協会 秋田 景旨 氏 ・場所：阿南支援学校ひわさ分校体育館 ・内容：①講師紹介 <p>②障がい者スポーツについてビデオ鑑賞 障がい者スポーツ全般についての紹介ビデオを観ながら、説明を受けた。徳島県の活躍している選手についての説明もあり、生徒も興味を持って話を聞くことができていた。</p> <p>③準備運動・投球練習 軽くストレッチを行い、新聞紙やペットボトルを用いて、的を狙って投げる投球練習を行った。的が小さくなるにつれ、「むずかしい」等の声も聞かれたが、集中して投球できている児童生徒が多かった。また、自力での投球が難しい生徒については、自作の投球機を使用して、練習を行った。</p> <p>④模範ゲーム 徳島県のボッチャ競技会のルールに基づいて、代表2チームが実践をした。投げる順番や、得点のつけ方など、講師の説明をよく聞くことができた。</p> 	全校児童生徒 13名
令和元年 12月16日（月） 14:00～14:45	<p>第2回ボッチャ教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：徳島県ボッチャ協会 秋田 景旨 氏 ・場所：阿南支援学校ひわさ分校体育館 ・内容：①ストレッチ・投球練習 <p>②ゲーム</p> <p>3人一組のチームを5組（教員・ALT含む）作り、トーナメント戦でゲームを実施した。チームで投げる順番などを相談しながらゲームをしたり、見学時は友だちの応援をしたり、ボールの行方に注目して観戦する態度もつき、コミュニケーション面の向上も図ることができた。また、判定についても、分かりやすく説明していただきながら実際に自分たちの目で確認することで、勝敗についても各自が受け入れることができていた。</p>	全校児童生徒 13名

		
<p>令和2年 1月30日（木） 14:50～15:00</p>	<p>居住地校交流におけるボッチャ教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：徳島県ボッチャ協会 村上 民男 氏 ・場所：牟岐中学校体育館 ・内容：13時よりボッチャ協会の方とコート2面の設営をし、活動の流れを確認した。居住地校交流を行っている本校生徒1名と牟岐中生22名を8チームに分けて、ボッチャの活動を行った。最初にボッチャ競技についての説明を聞き、投球練習をした後、2コートに分かれてトーナメント戦でゲームを行った。ジャックボールを投げる場所や、どこを狙って投げるかなどをチームで相談しながらゲームを楽しむことができていた。各チーム2回はゲームを行うことができたが、「もっとしたい」という声が聞かれた。表彰式も行い、本校生徒の作った作品を副賞に渡し、交流生にも喜んでもらえることができ、障がい者スポーツ（ボッチャ）をとおして有意義な交流の機会を設定することができた。 	<p>ひわさ分校生1名 牟岐中生22名</p>

③ 活動の成果

ボッチャはルールが分かりやすく、障がいがある人もない人も、運動が得意な人も苦手な人も、一緒に活動できる競技であり、本校児童生徒も学部を超えて楽しく活動をすることができた。少ない児童生徒数ではあるが、全員で行うことで仲間意識も高まり、コミュニケーション面でも成長がみられた。また、居住地校交流においての活動に取り入れることにより、障がい者スポーツについての理解啓発にも繋がった。中学校では、不登校気味の生徒がいるとのことであったが、ボッチャを楽しみにしてくれており、当日は全員参加であった。「楽しかった。またしたい。」の声もたくさん聞くことができた。

ボッチャ用コート設営や審判の仕方について教員も専門性を高めることができ、各学部の授業で実施する機会が増えた。

④ 今後の課題

生涯スポーツとして取り組むことのできるボッチャを楽しむことはできたので、ボッチャ競技の大会に参加できるような競技力を身につけることができるよう今後も体験を重ねていければと思う。しかし、本校は公共交通機関の利用が困難な地域にあるため、大会への参加には移動手段の確保が必要となる。また、生涯にわたり健康で豊かな生活を送るため、他のスポーツにも親しむ機会を設定し、身体を動かす楽しさや、体力の維持向上を促すことのできる活動を行うため、専門家の指導助言を受ける機会が得られればと考える。

2 障がいのある人がスポーツに参加できる条件整備の検討

障がいのある児童生徒が地域のスポーツクラブやイベントに参加するための方策について

(1) 総合型地域スポーツクラブに関する情報収集

総合型地域スポーツクラブ（以下 スポーツクラブ）は、「人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ」（スポーツ庁 HP）である。

スポーツクラブは、地域の活性化等、スポーツをとおした地域交流について重要な役割を期待されており、障がいのある人の参加状況等、現状を把握するにより、今後に生かせるヒントがあると考えられる。

徳島県内のスポーツクラブについて、電話による意見聴取を行った。36団体のうち、22団体から回答を得ることができた。結果は次のとおりである。

① 障がいのある方の参加（図1）

8団体のスポーツクラブにおいて、現在のところ、障がいのある方（幼児から高齢者まで）の参加がある。障がいのある方について、参加状況についていくつか具体例を伺うことができた。

- ・運動遊び等のキッズスポーツ教室に、幼児が親子で参加
- ・キッズ対象の活動に、発達障がいの方が数名参加
- ・子どもの頃からスポーツクラブに参加されている方が、大人になっても活動を継続
- ・カローリングのイベントに知的障がいの方が参加

スポーツの楽しみや健康増進はもちろんのこと、クラブの担当者や他の参加者も含めて、互いの理解を深め、交流を図るよい機会になっているようである。

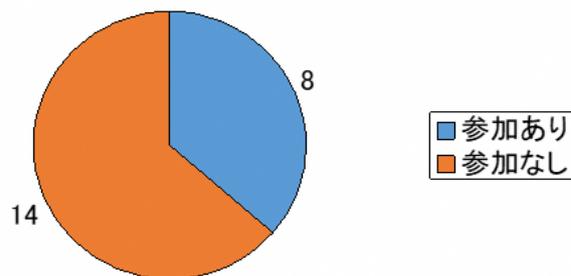


図1 障がいのある方の参加

② 障がい者スポーツ指導員の有資格者

3つのスポーツクラブに、障がい者スポーツ指導員の有資格者が所属しており、他のスポーツクラブにおいても、今後有資格者を育成する計画があるとの回答もあった。障がい者スポーツへの関心が高まっている中、スポーツクラブにおいても、「指導員の資格は取得した方がよいと思っている」とか、「障がいのある方への指導や支援方法について学ぶことが、さまざまな参加者への指導においても役立つのではないか」といった前向きな意見が聞かれた。

③ 今後の障がいのある方の参加について（図2）

障がいのある方の参加が可能、としているスポーツクラブについては、特に制限等はなく、希望があれば、必要な配慮や支援について、個別に相談に応じる、との回答がほとんどであった。

ソフトバレーやカローリングなど、実際に参加があるスポーツもいくつか聞かれた。

スポーツクラブは、「いつでも、だれでも、気軽に」、また「世代をこえて」「いろいろなスポーツを」楽しむ、ことを打ち出している

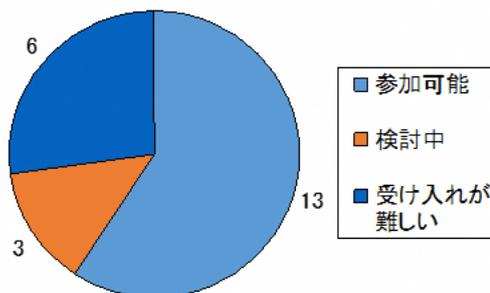


図2 今後の障がいのある方の参加について

ため、さまざまな内容と運動強度の講座や活動が展開されている。必要に応じて合理的配慮について話し合うことで、障がいのある人もない人も一緒に参加できるのではないかと考える。

④ 講座やイベントの広報の方法

定期的な講座やイベントの開催について、さまざまなメディアを活用して、広報に取り組んでいる。

- ・各市町村の広報に案内等を掲載
 - ・スポーツクラブのHPやSNSによる発信
 - ・新聞への折り込みチラシ
 - ・地元のケーブルテレビ活用
 - ・(イベントの場合)対象等も考慮して、域内の幼稚園や小中学校へ案内チラシを配布
- 子どもを集めることが課題、との意見もあるが、社会福祉協議会や発達障がいの子どもの支援機関等と関わりを持ち、広報することは効果的、とのお話があった。

⑤ 地域(幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校)との連携(図3)

具体的な取組を伺ったところ、小学校との連携が最も事例が多かった。現在、連携があるスポーツクラブは、いずれも地域とのつながりを大切に工夫を凝らした活動を実施している。そのほか、現在のところはまだできていないが、今後、地域の学校との連携を考えていきたい、との意見もあった。

- ・講座やイベントの案内チラシ配布
- ・幼稚園でのスポーツ指導
- ・幼稚園(または、子育て支援センター等との連携)で、体操やリズム体操の活動を実施
- ・小学生向けの活動に、地元の高校生が部活動の関係で交流
- ・(運動が苦手な)小学生向けの放課後スポーツ活動を実施
- ・小学校でのバブルボール実施に用具貸し出し
- ・小学校、中学校で車いすバスケットボール等の体験教室を実施
- ・特別支援学級で児童へのスポーツ指導を実施
- ・子どもの体力向上のため、教員向け研修等を実施
- ・小学校において、水辺の安全教室、カヌー体験等を実施
- ・キッズバレーの活動に、中学校のバレー部が協力、合同での練習を実施
- ・学校体育館において活動を実施、児童生徒も参加
- ・地域の中学校の特別支援学級スポーツ交流会を実施
- ・中学校や高等学校との連携により「ヒーロー養成講座」を実施



図3 地域の学校(幼小中高)との連携

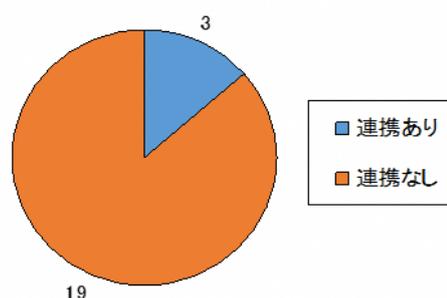


図4 特別支援学校との連携

⑥ 特別支援学校との連携(図4)

域内に特別支援学校がないスポーツクラブもあり、現在のところ、連携は少ないのが現状である。しかし、何らかの関わりを持っているスポーツクラブからは具体的な取組を聞くことができた。

- ・活動やイベント等について、特別支援学校へ案内チラシ配布
- ・クラブの指導者が、特別支援学校において外部講師としてスポーツを指導
- ・他機関との連携により、障がいのある子どものためのポッチャ教室を実施
- ・障がいのある子どものためのサッカー交流会を実施

今後、「障がいのある方も気軽に参加してもらえるように、活動を広げていきたい」、「いつでも、どこでも、だれでも、受け入れる体制をさらに整えたい」との意見を聞くことができた。

スポーツクラブでは、「障がいのある人もない人も共に参加できる環境づくり」や「地域コミュニティの形成」等がメリットとしてあげられている。

今回の聴き取りにより、各地のスポーツクラブが地域の小学校等と連携している活動が、特別支援学校との連携に参考になるのではないかと考えられる。今後、スポーツクラブの活動に関する広報をはじめ、特別支援学校への指導者派遣等、可能なところから具体的な連携ができると、特別支援学校の児童生徒のスポーツ活動の場がひろがっていくと思われる。

特別支援学校におけるスポーツ活動について、スポーツクラブとの連携を具体的に進めることは、地域に密着した多様なスポーツライフの実現のために有効であると考えられる。

(2) 駅伝大会参加の生徒へのアンケート

地域の駅伝大会参加の生徒（特別支援学校2校、中学部・高等部生徒32名）について、アンケートを実施した。（図5）

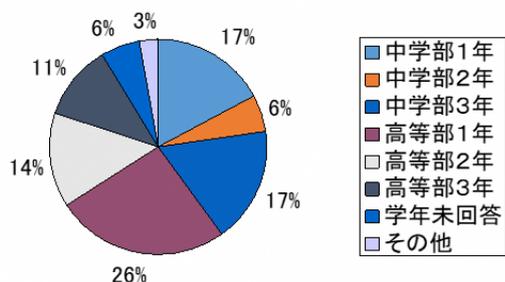


図5 駅伝大会参加生徒の学部と学年

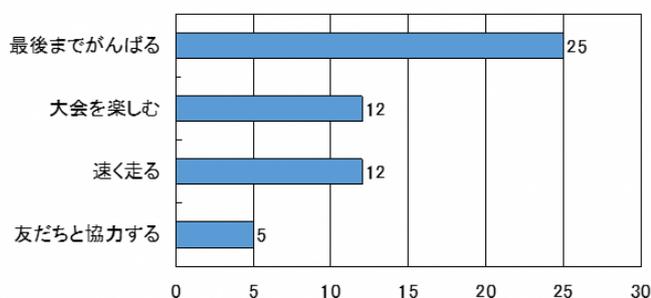


図6 駅伝大会参加の目標（あてはまるもの2つ回答）

① 駅伝大会参加の目標について（図6）

駅伝大会ということで、チームでの参加であり、「最後までがんばる」という意見が最も多く、「大会を楽しむ」「速く走る」という意見が続いた。参加生徒はそれぞれに目標を持って、意欲的に大会に臨んでいることがわかった。

② 大会に参加した感想

- ・楽しかった。（6人）
- ・友だちと協力して走ったのが楽しかったです。（2人）
- ・初めてで緊張したけど、がんばりました。
- ・最後までがんばりました。（7人）
- ・けっこうきつかったです。（4人）
- ・最後は疲れたが、もう少し速く走ればよかった。
- ・皆速かったです、がんばって走りました。（2人）
- ・全力を出してもなかなか追いつきませんでした。
- ・選抜（チーム）がとても速かった。（2人）
- ・去年の自分に勝ったか、が気になります。
- ・周囲の景色がとても素晴らしい中で走って、疲れましたが楽しかったです。
- ・自分の実力を判断するいい機会だった。（地域の）風景は美しいものだった。
- ・みんなで走っていい思い出になりました。
- ・他の中学校の子と一緒に走るのが楽しかったです。
- ・いろいろな人と走れて楽しかったです。
- ・また（来年も）参加したいです。（3人）

最後までがんばることの大切さを感じながら、友だちと協力したり、他校の生徒から刺激を受けたりして、大会参加を楽しんでいる様子が見える。身近なスポーツ大会として、地域交流の機会として、「これからも参加したい」との意見があり、それぞれの生徒にとって、地域のスポーツ大会参加は、有意義な取組であることがわかった。

③ スポーツについて（図7）

駅伝大会参加の生徒に、全国障がい者スポーツ大会の実施競技を中心に、好きなスポーツややってみたいスポーツについてたずねたところ、次のような結果であった。

個人競技や団体競技など、さまざまなスポーツに関心をもっているようである。

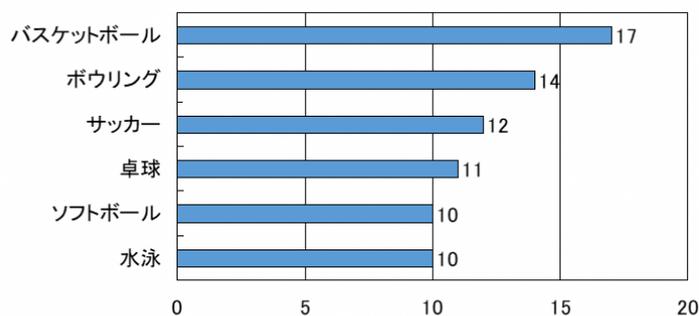


図7 好きなスポーツ、やってみたいスポーツ（いくつでも回答可）

（まとめ）

障がいのある児童生徒が地域のスポーツクラブやイベントに参加するための方策について、総合型地域スポーツクラブや大会参加の特別支援学校生徒を対象に意見聴取等を行った。

スポーツクラブでは、それぞれに多様な活動が展開されており、すでに障がいのある方が参加しているクラブもある。地域の子供たちは地域で育てる、との意見も聞かれ、特に地域の小学校等と連携している取組は、非常に多彩でニーズに応えるものになっている。

特別支援学校においても、日頃よりさまざまなスポーツ活動を行っている。地域のスポーツイベントやスポーツ大会に参加することは、児童生徒にとっては有意義な取組となっており、これからのスポーツによる地域交流は期待されているところである。

今後、特別支援学校の生徒がスポーツライフを継続していけるよう、学校での取組をはじめ、事業展開等において、地域との連携や総合型地域スポーツクラブ等の地域のリソースを活用したスポーツの情報提供や機会提供、スキルアップを考えていきたい。

Ⅲ－２ 障がい者スポーツ理解促進事業

徳島県障がい者スポーツ協会

1 はじめに

当協会では、障がい者のスポーツ活動向上のため、指導者の育成、競技力の向上、そして、地域でスポーツに取り組むことができる環境づくりに努めている。

また、「東京2020オリンピック・パラリンピック」を直前に控えた絶好のタイミングで、「とくしまマラソン2020」に「車いすロードレース」が加わり、当協会が、主催者の一員として参画することとなった。

このように、行政をはじめとした関係機関及び関係団体と連携を深めながら、障がいへの理解及び障がい者スポーツの普及促進を図り、これまでに取り組んできた成果を踏まえ、点ではなく面で捉えることで、ジュニアから高齢者まで幅広くかつ継続的にスポーツができる環境を整え、障がいがあるなしに関わらず多角的な視点から、障がい者スポーツを生涯スポーツに繋げる環境づくりを行う。

2 事業の目的

2020東京オリンピック・パラリンピックの1年前をとらえ、多くの県民の方々をはじめ、スポーツ関係者、小中高生等がパラリンピック正式種目等の障がい者スポーツの体験を通して、障がいや障がい者スポーツの理解を深めるとともに関係団体や障がい者スポーツ指導者等と連携し行うことで、地域での障がい者スポーツの活性化を図ることを目的とし開催する。

3 事業の概要

<開催日時・場所>

令和元年8月25日（日）午前9時30分から午後2時30分まで
徳島県立障がい者交流プラザ体育館

<事業名称>

パラスポーツの祭典 in 徳島!!徳島県障がい者スポーツフェスティバル

<参加者数>

800名

<開会セレモニー>

障がい者スポーツ体験イベント



<イベントを通じた演出>

1. オープニングダンス
※曲 パプリカ他1
2. カウントダウンイベント
①メッセージキルト
②カウントダウン看板除幕式
3. 障がい者スポーツ実演・体験会・展示
①フェンシング ②車いすテニス
③車いすバスケットボール ④ボッチャ
⑤車椅子レーサー



<連携団体>

徳島県、徳島県社会福祉事業団、徳島県フェンシング協会、徳島車いすテニスクラブ、徳島県車椅子バスケットボールクラブ、徳島県ボッチャ協会、徳島県障害者スポーツ指導者協議会

4 成果及び評価

<成果>

令和元年8月25日(日)、「パラスポーツの祭典 in 徳島!!徳島県障がい者スポーツフェスティバル」を徳島県立障がい者交流プラザにおいて開催。当日は、車いすテニス、ボッチャ、車いすバスケットボール、フェンシングなど障がい者スポーツの実演・体験を行い、また障がい者スポーツセンターの協力により、キッズコーナーの設置や保育士ヒーローショー、フラメンコ、ダンス、バトントワリングなども披露し、幅広い年齢層の方々に、障がい者スポーツの魅力、迫力、楽しさを伝えることができました。また、連携団体と協力し開催したことで、今後も障がい者スポーツの普及・促進を共に図っていきけるような、より良い関係性を築くことができました。

<事業を実施する上での考え方>

- ①東京2020パラリンピック1年前を前面に出すこと。
 - ②多くの県民の方々が障がいや障がい者スポーツへの理解を深め、障がい者スポーツを身近に感じていただくこと。
 - ③一過性のものではなく、2020年8月まで繋がること。
- この3つの考え方を柱とし、本事業を行いました。

<対策>

- ①東京2020オリンピック・パラリンピックのロゴマークやキャラクターの利用、パラの横断幕や幟を掲げ会場の雰囲気づくり、そして、東京2020パラリンピックが迫っていることを実感していただくために、パラリンピックの開会式までをカウントするカウントダウンボードの設置を行いました。

- ②毎年8月に開催している「交流プラザフェスタ」と同時開催することで、幅広い層への周知と集客効率の向上を図り、NHKとのコラボによる「アニパラ」映像の上映や普段なかなか見ることのできないパラ正式種目を体験していただくことで、障がい者スポーツを身近に感じていただくとともに、連携競技団体の協力のもと障がい者本人に実演

していただくことで、障がいや障がい者スポーツの理解を図りました。

③については、「みんなでつくり、未来へ紡ぐ」をコンセプトとし、参加者の方々に応援等の言葉や絵、イベントを通して感じた思いを白い布に書いていただき、それを紡ぐことにより、みんなの力を一つ（絆）にし、未来（2020東京パラ）に繋がります。

なお、このメッセージキルトは、今後行われる様々な機会を捉え、カウントダウンボードの設置とともに、パラリンピック開催まで継続して行います。



<アンケート結果>※別紙参照

- ・アンケートの回収数は800人中64件
- ・回答の9割が健常者
- ・年齢層は10代未満から10代の方が半数近くを占めていました。
- ・今回のスポーツ体験では、6割が「初めて体験した」との回答で、「楽しかった」との回答が9割を超えていました。

<考察>

上記のアンケート結果から、10代の小中高生を中心とした多くの方々に障がい者スポーツを体験していただけたことは、非常に大きな成果だと思います。

障がい者スポーツの普及・促進には、若い世代の力、そして地域住民の方々の理解が欠かせません。地域の中で、障がい者が気軽にスポーツを楽しみ、そして生涯スポーツへとつなげていくためにも、障がい者スポーツを近くで見て、触れて、感じる事ができる事業（イベント）は、継続して行う必要があると実感しました。

また、今回のアンケートでは、「来場して初めてイベントを知った。高校にも案内があると良かった。」との意見もいただき、周知方法についての課題も見えました。

当協会では、情報提供の方法等について再度検証するとともに、本事業を行う上で築くことのできた連携団体との関係を生かし、工夫を凝らしながら、障がいの有無に関わらず、多くの方々にスポーツを楽しむことができる環境づくりや様々な障がい者スポーツ事業の展開を図っていきたいと思います。

<体験風景>

① (フェンシング体験)



② (車いすテニス体験)



③ (車いすバスケットボール)



④ (ボッチャ体験)



「徳島県障がい者スポーツフェスティバル」アンケート集計結果

【イベント概要】

名称：徳島県障がい者スポーツフェスティバル

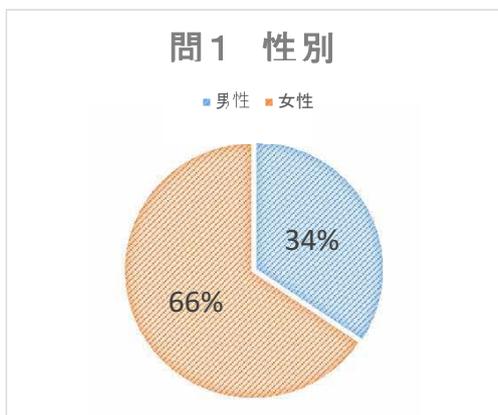
日時：令和元年8月25日（日） 11時30分～14時30分

場所：徳島県立障がい者交流プラザ 体育館

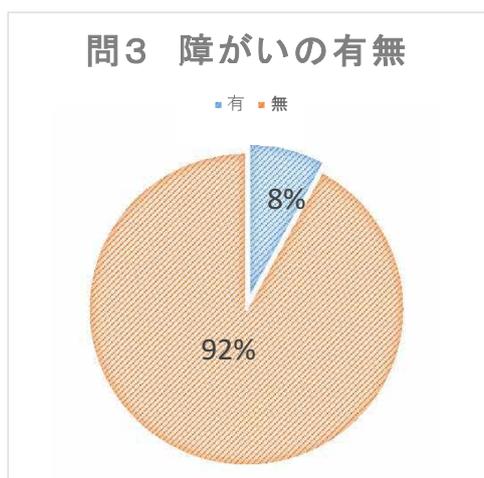
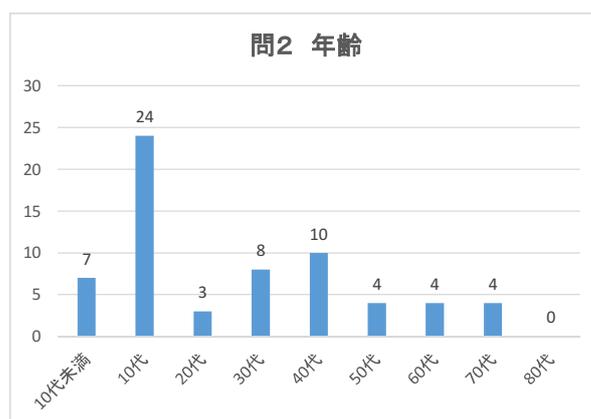
（徳島県徳島市南矢三2丁目1-59）

イベント来場者数：約800人

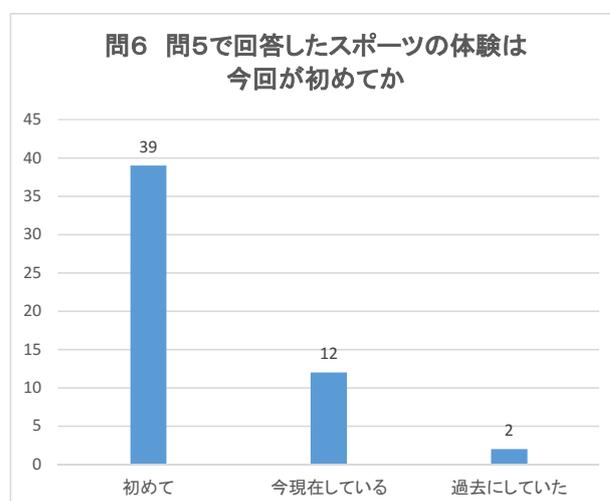
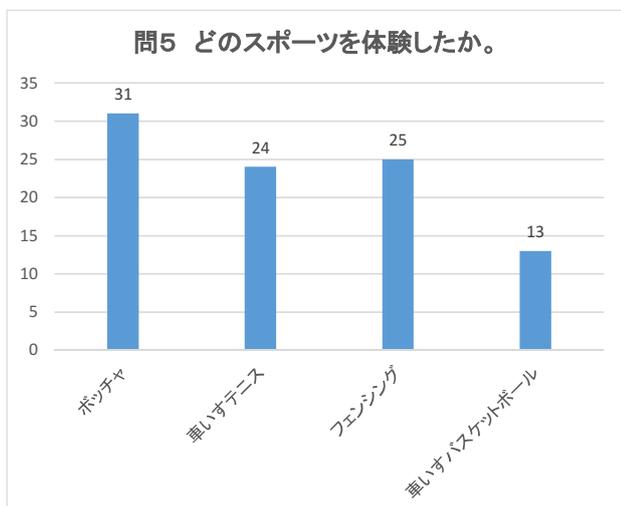
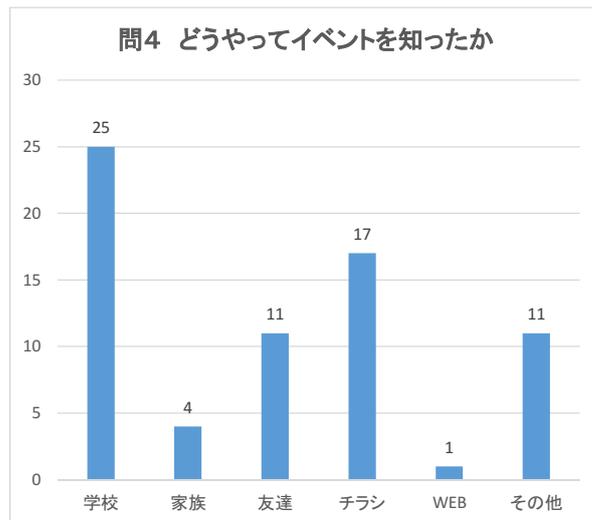
アンケート回収数：64件



性別	
男性	22
女性	42
計	64

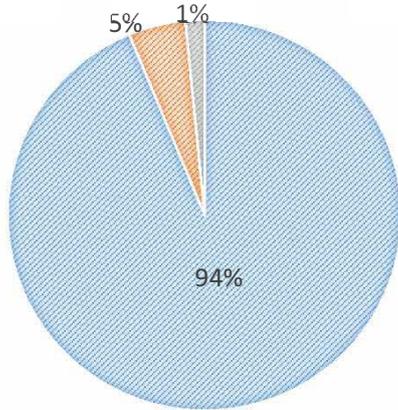


障がいの有・無	
有	5
無	58
計	63



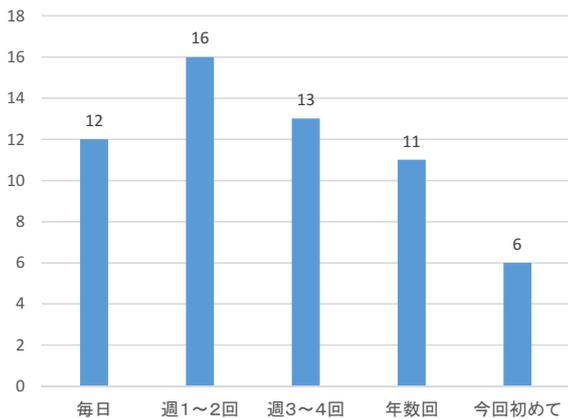
問7 今回のイベントは楽しかったか

■楽しかった ■少し楽しかった ■普通 ■あまり楽しなかった ■楽しなかった

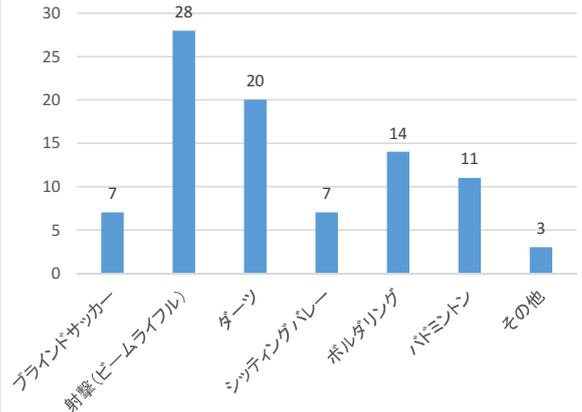


満足度	
楽しかった	60
少し楽しかった	3
普通	1
あまり楽しなかった	0
楽しなかった	0
計	64

問9 どの程度(頻度)スポーツをしているか。



問10 今後イベントで体験してみたいスポーツ



【自由記載欄(※)問8番は該当なし】

- ①良かった。
- ②体を動かすのが苦手で見学していましたが車イスのおにごっこがものすごく迫力がありました。
- ③車いすおにごっこが面白かった。
- ④ゲーム大会 PC
- ⑤初めてフェンシングをさせていただきましたが、見るのとやるのでは全く競技への理解が違うので是非是非皆さんに体験してほしいです。
- ⑥共生社会を目指して継続してやってほしい。
- ⑦楽しかったです！
- ⑧楽しい経験ありがとうございました。
- ⑨体験を見るのも楽しかった。来場して初めてイベントを知った。高校にも案内があると良かった(特活課や総合学習担当とかに)

Ⅲ－３ 共創共楽スポーツ推進事業

徳島県県民環境部スポーツ振興課

1 事業の目的 障がい者スポーツの普及等を推進していくためには、各市町村のスポーツ推進委員、レクリエーション協会、社会福祉協議会等と連携して、障がい者がそれぞれの暮らす地域でスポーツを楽しむことのできる環境づくりが重要であり、生涯スポーツ振興の核である総合型地域スポーツクラブにおいても、障がい者スポーツを推進するための理解や活動の場づくりが進みつつある。

このような背景から、本事業では徳島県障がい者スポーツ協会等の関係機関との連携体制の強化を図り、総合型地域スポーツクラブにおける障がい者スポーツの理解をより一層深めることで、障がい者の継続的なスポーツの実施を促進するとともに、地域における障がい者スポーツ種目の体験・理解を推進する。

2 事業の実施概要

- (1) 障がい者が参加しやすいスポーツプログラムの実施
- (2) 障がい者スポーツ体験会の実施
- (3) 関係機関と連携したスポーツ・レクリエーションイベントの実施
- (4) 障がいのある人もない人も一緒に楽しめる場を創る人材の研修
- (5) その他普及啓発のための広報活動

3 取組内容

- (1) 障がい者が参加しやすいスポーツプログラムの実施

・実施内容

総合型地域 スポーツクラブ	事業内容
AWAにじいろ クラブ	<p>①健康づくり運動教室（2回）</p> <p>開催日 令和元年11月30日（土）、12月21日（土）</p> <p>10:00～11:00</p> <p>会場 バーベナの里</p> <p>参加者 37名（内、障がい者31名）</p> <p>内容 健康づくりや生活習慣病予防を目的として、（公社）日本エアロビック連盟公認エアロビック指導員が、阿波市内の作業所を通じて参加した障がい者を対象に、気軽に取り組める簡単ストレッチや音楽に合わせて楽しく身体を動かすリズムダンスなどの運動教室を開催した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

総合型地域 スポーツクラブ	事業内容
NARUTO総合型 スポーツクラブ	<p>①車椅子ソフトボール教室</p> <p>開催日 令和元年10月20日(日) 13:00～15:00</p> <p>会場 鳴門市勤労者体育センター</p> <p>参加者 18名 (内、障がい者10名)</p> <p>内容 誰もが共に楽しむことができるスポーツ環境づくりを目的に、障がいの有無に関わらず、誰もが同じ条件で競技する「車椅子ソフトボール教室」を開催した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>
	<p>②CHALLENGE-MUCHふれあい交流大会</p> <p>開催日 令和元年11月24日(日) 9:30～16:00</p> <p>会場 鳴門市営球場</p> <p>参加者 徳島ウイングス, 龍野アルカディア, 愛媛ブレイブス 37名(3チーム)</p> <p>内容 スポーツを通じた豊かな社会生活の形成や参加者同士の相互交流による仲間づくりを目的に、身体障がい者野球交流大会を開催した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>
	<p>③車椅子バスケットボール教室(6回)</p> <p>開催日 令和元年10月～令和2年2月</p> <p>会場 鳴門市勤労者体育センター</p> <p>参加者 60名(内、障がい者28名)</p> <p>内容 誰もが共に親しめる車椅子バスケットボール教室を開催し、障がい者の競技力向上を促進するとともに、鳴門教育大学などの学生の参加を通して、若者に障がい者スポーツの理解を促進を図った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>

(2) 障がい者スポーツ体験会の実施

① ゴールボール体験会

日時 令和元年10月5日(土) 10:00~11:00

会場 藍住町体育センター

参加者 35名

内容 障がい者スポーツの普及・啓発を目的に、NPO法人あいずみスポーツクラブと連携して、小学生の子ども達を対象に、アイマスクを着用してボールの転がる音などを頼りにボールをキャッチすることの難しさを経験することを通じて、障がいの理解促進を図った。



② ゴールボール体験会

日時 令和2年2月1日(土) 10:00~12:00

会場 海陽町立海南小学校「体育館」

参加者 24名(内、子ども8名)

内容 総合型地域スポーツクラブを核とした地域における障がい者スポーツの振興体制の推進を目的に、NPO法人海陽愛あいクラブ及び徳島県障がい者スポーツ協会と連携してゴールボールの体験会を実施し、地域の小・中学生や小学校の教員など幅広い世代の方が参加した。



③ ボッチャ体験会

日時 令和元年10月19日(土) 10:00~12:00

会場 勝浦町農村環境改善センター

参加者 100名

内容 障がいの有無に関わらず身近な場所で共にスポーツを楽しめる環境づくりが促進できることを目的に、地域のイベント実施に併せて、徳島県障がい者スポーツ協会やNPO法人K-Friendsと連携してボッチャ体験会を開催した。



(3) 関係機関と連携したスポーツ・レクリエーションイベントの実施

① パラスポーツフェスタ

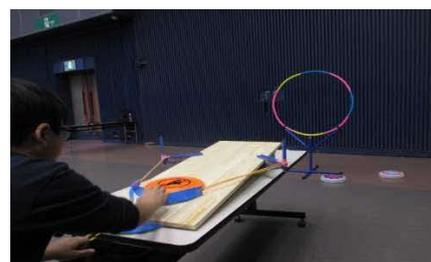
日時 令和元年11月17日(日) 10:00~16:00

会場 アスティとくしま

参加者 3,000名

内容 様々なスポーツ体験を通じて、健康づくりの推進と障がいや障がい者スポーツの理解を深めることを目的に、徳島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会をはじめ、徳島県肢体不自由児者父母の会連合会、徳島県トレーナー協会等と連携して車椅子バスケットボール、障がい者フライングディスク、誰もが気軽に取り組めるレクリエーション種目やレーザー試乗体験コーナー等の10種目の体験ブースを設営して開催した。

また、誰もが共に楽しむことへの配慮として、NPO法人うだつコミュニティスポーツクラブが独自に作成したカラーリング投球時の補助スティック、さらに、フライングディスク投球用の補助具を活用して取り組んだ。



② ソフトバレーふれあい交流大会

日時 令和2年1月26日(日) 9:00~17:00

会場 うだつアリーナ

参加者 200名

内容 障がいの有無に関わらず共に楽しむことを目的に、徳島県精神保健福祉協会、NPO法人うだつコミュニティスポーツクラブと連携してソフトバレーボール交流大会を開催した。



(4) 障がいのある人もない人も一緒に楽しめる場を創る人材の研修

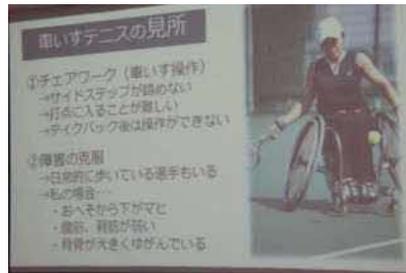
①障がい者スポーツセミナー

日時 令和元年9月21日(土) 13:00~15:00

会場 徳島県立西部防災館

参加者 40名

内容 地域で障がいの有無に関わらず共にスポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現に必要な情報習得や人材養成を目的に、総合型地域スポーツクラブや各種スポーツ関係団体、スポーツ指導者等が参加して開催した。具体的には、日本福祉大学の安藤先生とパラリンピック北京大会、ロンドン大会に車いすテニス競技選手として出場された岡部裕子さんを講師に迎え、「障がい者スポーツ推進の意義」や「パラリンピック競技の魅力」を、車いすテニスの実技体験等を通じて学ぶとともに、岡部さんの経験談を「スポーツを通じた共生社会の実現」として講演いただいた。



②障がい者スポーツ講習会

日時 令和元年9月22日(日) 10:00~11:30

会場 とくぎんトモニプラザ

参加者 15名

内容 地域で障がいのある人とない人が共にスポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目的に、視覚障がい者の方を誘導する方法やマラソン等の伴走者となった時の役割、注意点などを学び、視覚障がいへの理解を深めた。

本講習会には、総合型地域スポーツクラブの指導者や市町村のスポーツ推進委員等が参加するとともに、徳島県スポーツ少年団の指導者や将来のスポーツ少年団の指導者を目指すリーダーも参加し、ネットワークづくりの一助となった。



③ゴールボール体験セミナー

日時 令和元年10月5日(土) 10:00~11:00

会場 藍住町体育センター

参加者 29名

内容 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を機会に、視覚障がい者のパラリンピック種目であるゴールボールの普及と障がい者スポーツ指導の担い手となる人材を育成し、障がい者スポーツの普及振興を図ることを目的として開催した。

具体的には、ゴールボール競技の日本代表(女子)チームトレーナーを講師に迎え、ゴールボール競技の魅力や指導方法を学ぶ機会となった。



(5) その他、普及啓発のための広報活動

①障がい者スポーツ関連事業の周知

徳島県障がい者スポーツ協会が実施する「出張スポーツ教室」の開催案内を総合型地域スポーツクラブに発信した。

②障がい者スポーツの普及啓発

期日 令和元年11月4日(月・祝)

会場 新町川水際公園

内容 とくしまNPOボランティアフェアにおいて、障がい者スポーツ関連チラシ等の配布、さらに、ゴールボール競技の試合球やアイシェード等の用具を展示して普及・啓発を図った。



期日 令和2年1月18日(土)～19日(日)

会場 アスティとくしま

内容 地域スポーツの振興と住民の心身の健全を図ることを目的とした四国地区のスポーツ推進委員研修会の会場において、障がいの理解促進や障がい者スポーツの情報提供を行い普及・啓発を図った。

期日 令和2年2月9日(日)

会場 牟岐町海の総合文化センター

内容 牟岐町図書館が主催する「むぎとしよマルシェ」会場において、ボッチャ競技や障がい者フライングディスク競技体験コーナーを設け、さらに障がい者スポーツ関連情報の普及・啓発コーナーを設けて、障がい者スポーツの普及・啓発を図った。

期日 令和2年2月22日(土)～3月31日(火)

会場 人形文化交流館

内容 ビッグひな祭り会場において、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてのムーブメント醸成や関心を向上させることを目的として、国際スポーツ大会及び障がい者スポーツのPRブースを設けて来場者へ周知した。

また、期間限定で、会場の一部にパラリンピック正式種目である、ボッチャ競技体験コーナーを設け、障がい者スポーツの普及・啓発を図った。



③障がい者スポーツ普及啓発用チラシの作成及び配布

障がい者スポーツの理解促進及び本事業の実施内容の周知を図るため、2種類のチラシを作成し、総合型地域スポーツクラブや市町村行政に配布した。



4 実施の効果とあい路

- (1) 障がい者が参加しやすいスポーツプログラムの実施
 - ・新たにAWAにじいろクラブが、阿波市内の作業所に通う障がい者等に生活習慣病予防やストレス発散に効果のある運動教室を本事業で実施することで継続的な教室開催に繋がった。
 - ・車椅子バスケットボール等の競技種目を継続して実施することで競技力向上とともに、健康づくりや仲間づくりに繋がった。
 - ・障がいの理解を持った指導者の養成や身近な場所で活動できる拠点整備が必要である。
- (2) 障がい者スポーツ体験会の実施
 - ・障がいの理解や障がい者スポーツの普及促進に繋がった。
 - ・総合型地域スポーツクラブと連携してボッチャやゴールボールの体験会を開催することで東京2020パラリンピックへの興味・関心も高まった。
 - ・県内において活動が無かったゴールボールの普及・啓発に繋がった。
 - ・スポーツ推進委員等の障がい者スポーツへの興味・関心が高まった。
- (3) 関係機関と連携したスポーツ・レクリエーションイベントの実施
 - ・他事業と連携したイベント開催となったことで、多くの来場者に参加してもらえた。
 - ・少しの工夫があれば、誰もが同じように取り組めることを知ってもらう機会となった。
 - ・障がい者スポーツへの興味・関心を高める機会となった。
 - ・イベントの取組を定期的に取り組める環境づくりが必要であると感じた。
- (4) 障がいのある人もない人も一緒に楽しめる場を創る人材の研修
 - ・「にし阿波・パラスポーツ推進協議会」等と連携して実施することで広く事業の周知ができた。
 - ・車いすテニスの実技体験やアイマスクなどを使用して視覚に障がいがある方の疑似体験をすることで、障がいの理解を深めるとともに、介助者となった時に必要な知識を学ぶ機会となった。
 - ・障がい者スポーツへの興味・関心を高め、障がい者スポーツ指導者の資格取得に繋がった。
- (5) その他、普及啓発のための広報活動
 - ・広報活動を通じて、障がいのある方の総合型地域スポーツクラブへの参加促進に向けた啓発を行う中で、障がいや障がい者スポーツのさらなる理解促進を図る必要性を感じた。

5 おわりに

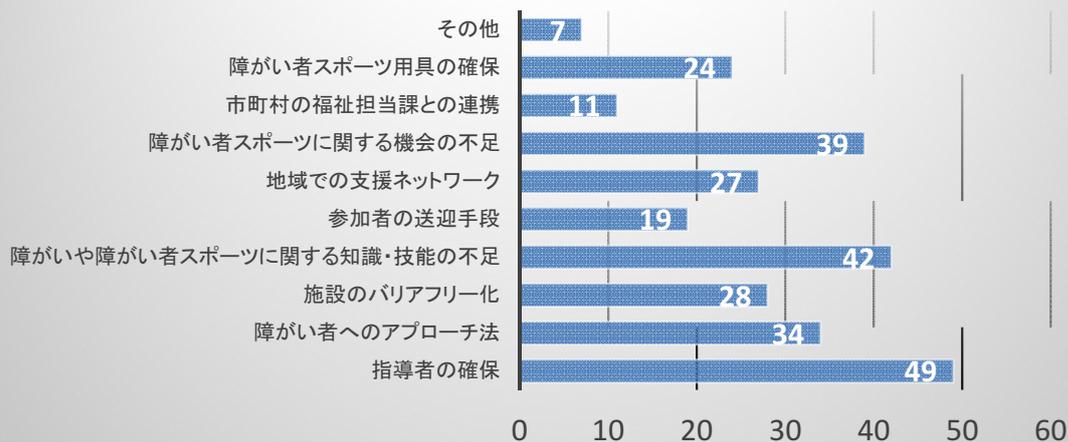
実施事業のうち、「障がい者スポーツセミナー」、「障がい者スポーツ講習会」、「ゴールボール体験セミナー」、「パラスポーツフェスタ」において、アンケートを実施した。

アンケートの設問[障がい者の参加を促進する上での課題]では、『指導者の確保』、『障がいや障がい者スポーツに関する知識・技能の不足』、『障がい者スポーツに関する機会の不足』という回答が多かった。障がい者スポーツに関する機会を促進するためには、知識・技能を有した指導者の確保が求められている。また、アンケートの設問[障がい者の参加を促進するため、希望する支援]では、『地域の支援ネットワーク』と『障がい者スポーツに関する情報提供』が多く求められている。

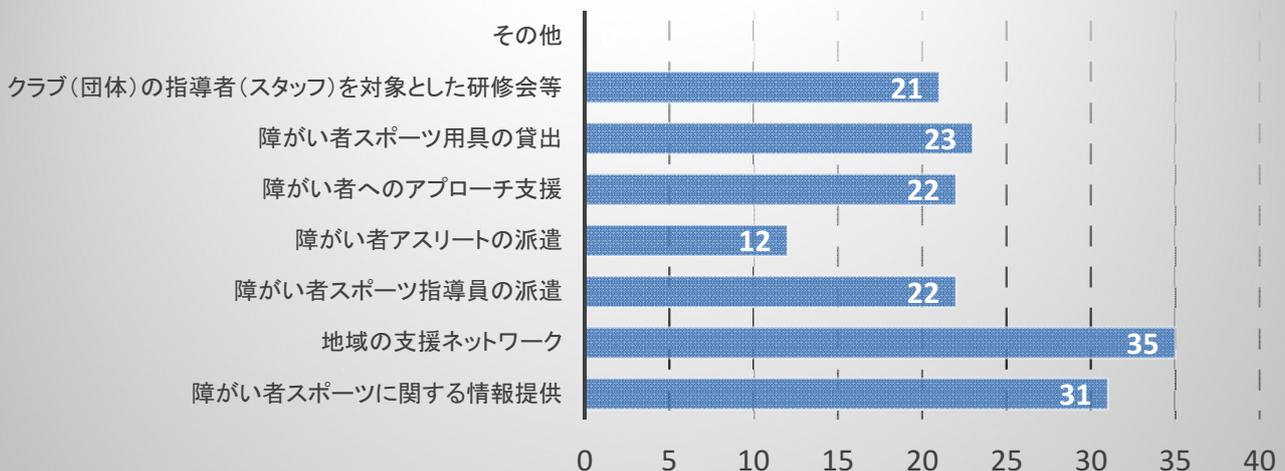
本事業の実施及びアンケート結果から、障がい者スポーツ指導員を養成・育成・活用している徳島県障がい者スポーツ協会とさらに連携し、総合型地域スポーツクラブが定期的な活動の場となるような環境整備に努めていく。

さらに、地域スポーツ振興の推進エンジンとしての役割が期待される総合型地域スポーツクラブが、定期的な活動の実践や体験会の開催を場通じて、地域組織とのネットワークづくりのコーディネート役を担えるよう努めていく。

障がい者の参加を促進する上での、課題は何ですか。(複数回答可)



障がい者の参加を促進ため、希望する支援は何ですか。(3つ以内)



Ⅲ－４ 持久水泳普及事業（ふれあいスイミング・持久水泳認定会）

岡田企画株式会社（徳島県障がい者スポーツセンター指定管理者）

1. 事業の目的

従来の水泳に加え、水中歩行・水中体操など水を媒体にした運動は、障がいの有無に関わらず誰でも気軽にできる運動である。また、水の持つ特性（水圧・浮力・抵抗・水温等）を十分に活用することにより、陸上運動に比べ様々な効果が期待できる。事業においては、これらのことを踏まえ参加者が生涯に亘って積極的にスポーツに親しむ習慣や意欲を育むことを狙いとする。

最終的には、参加者の努力に対して認定会を開催することにより保護者共々、達成感や満足感を得ることができることを目的とする。

2. 事業の概要

（１）普及促進基礎事業「ふれあいスイミング」

県内の特別支援学校生徒の障がい特性にあった水泳レッスンを実施し、水泳の楽しさを仲間同士で感じてもらう。また、水の特性を活かし「遊ぶこと」「浮くこと」「掻くこと」「蹴ること」を習得することにより、効果的な持久的身体的能力の向上を目指す。

さらには、水に浮くこと、呼吸の確保、進むことができる、というような安全面を意識したレッスンを実施する。

（２）普及促進支援事業「持久水泳認定会」

基礎事業の努力目標、事業効果確認のため支援事業として開催する。自由な泳ぎ（浮き具の装着も可）でプールサイドに掴まることなく、プールの底に着足することなく指定された時間（7分・10分・20分・30分）を泳ぐ（回遊する）こと、または浮いていることができれば認められる認定会を実施する。参加者は泳ぎ終われば十分な達成感や満足感を得ることができ、水中運動への大きな動機付けとなる。

3. 事業の内容

（１）普及促進基礎事業「ふれあいスイミング」

① 鳴門教育大学附属特別支援学校小学部

・期 日： 令和元年9月5日（木）

・場 所： 徳島県立障がい者交流プラザ 障がい者スポーツセンター温水プール

・内 容 :

時間	内容
9 : 30	マイクロバス 2 台に分乗し鳴門教育大学附属特別支援学校を出発
9 : 45	スポーツセンター到着,更衣
10 : 00	プールサイド集合,挨拶,体操後プールレッスン開始
	<p>対象者を 3 グループに分け,泳力別でレッスンを実施</p> <p>(1 班) 生徒 6 名,支援教員 2 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水慣れ ・ 腰掛けキック ・ 水中歩行 ・ ワニ歩き→トンネルくぐり,ボール拾い ・ ロングマットを使用しバタ足の練習 ・ ビート板キック <p>(2 班) 生徒 8 名,支援教員 2 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水慣れ ・ 腰掛キック ・ 水中歩行→ジャンプで水中移動 ・ 顔つけ,バブリング,ポビング ・ 壁キック ・ ビート板キック ・ ビート板を持ち手を回しクロールの動きの練習 <p>(3 班) 生徒 4 名,支援教員 1 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水慣れ ・ ビート板キック ・ 面かぶりビート板キック ・ サイドキック (ビート板有) ・ クロール (ビート板有) ・ 背面キック



11 : 00	プールレッスン終了,更衣
11 : 20	マイクロバス 2 台に分乗しスポーツセンター出発
11 : 40	鳴門教育大学附属特別支援学校到着

② 国府支援学校小学部高学年

- ・期 日： 令和元年9月12日（木）
- ・場 所： 徳島県立障がい者交流プラザ 障がい者スポーツセンター温水プール
- ・内 容：

時間	内容
9：30	マイクロバス2台に分乗し国府支援学校出発
9：50	スポーツセンター到着,更衣
10：00	プールサイド集合,挨拶,体操後レッスン開始
	<p>対象者を3グループに分け,泳力別でレッスンを実施</p> <p>(1班) 生徒11名 支援教員9名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水慣れ ・腰掛キック ・顔付け,バブリング,ポビング ・水中歩行 ・ワニ歩き→トンネルくぐり,ボール拾い ・ロングマットを使用しバタ足の練習 ・ビート板キック <p>(2班) 生徒10名 支援教員4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水慣れ ・腰掛けキック ・水中歩行 ・顔付け,バブリング,ポビング ・壁キック ・ビート板キック ・ビート板持って顔を付けてバタ足 ・ビート板を持ってクロールの手の練習 ・スベリ台 <p>(3班) 生徒11名 支援教員1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水慣れ ・ビート板キック ・面かぶりキック (ビート板有) ・背面キック

	
11 : 00	プールレッスン終了,更衣
11 : 20	マイクロバス 2 台に分乗しスポーツセンター出発
11 : 40	国府支援学校到着

③ 国府支援学校小学部中学年

- ・期 日： 令和元年10月10日（木）
- ・場 所： 徳島県立障がい者交流プラザ 障がい者スポーツセンター温水プール

・内 容 :

時間	内容
9 : 30	マイクロバス 2 台に分乗し国府支援学校を出発
9 : 50	スポーツセンター到着,更衣
10 : 00	プールサイド集合,挨拶,体操後プールレッスン開始
	<p>対象者を 3 グループに分け,泳力別でレッスンを実施</p> <p>(1 班) 生徒 7 名,支援教員 5 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水慣れ ・ 腰掛けキック ・ 水中歩行 ・ ワニ歩き→トンネルくぐり,ボール拾い ・ スベリ台→ワニ歩き→トンネルくぐり ・ ロングマットを使用しバタ足の練習 ・ ビート板を持って歩く,ジャンプ ・ ビート板キック <p>(2 班) 生徒 14 名,支援教員 7 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水慣れ ・ 腰掛キック ・ 水中歩行 ・ 顔つけ,バブリング,ボビング ・ ワニ歩き→バタ足 ・ ビート板キック ・ ボール拾い,水中玩具拾い,スベリ台 <p>(3 班) 生徒 8 名,支援教員 1 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水慣れ ・ ビート板キック ・ 面かぶりキック (ビート板有) ・ 背面キック ・ 背泳ぎ

	
11:00	プールレッスン終了,更衣
11:20	マイクロバス2台に分乗しスポーツセンター出発
11:40	国府支援学校到着

(2) 普及促進支援事業「持久水泳認定会」

- ・期 日： 令和元年11月4日(月)
- ・場 所： OKいしいパーク四銀いしいドーム温水プール
- ・対 象： 障がいのあるなしにかかわらず, 4歳～一般の方(保護者・介助者)
- ・参加者： 7分参加者・・・50名
10分参加者・・・35名
20分参加者・・・22名
30分参加者・・・45名
合計・・・152名

(内訳)

幼 児・・・・・・・・	21名	小学生・・・・・・・・	93名
中学生・・・・・・・・	10名	10代・・・・・・・・	2名
20代・・・・・・・・	3名	30代・・・・・・・・	2名
40代・・・・・・・・	3名	50代・・・・・・・・	1名
60代・・・・・・・・	12名	70代・・・・・・・・	5名
(障がい者(児)・・・28名)			

内 容 :

時間	内容
8 : 4 5 ~ 9 : 1 5	参加者受付開始
9 : 2 0 ~	<p data-bbox="657 353 751 387">開会式</p>  <p data-bbox="657 869 995 902">プールサイドにて開会式。</p> <p data-bbox="657 972 1259 1059">徳島ライフセービングクラブに協力いただき、参加者の安全面の確保。</p>
9 : 4 0 ~	<p data-bbox="657 1077 1015 1111">20分間持久水泳認定1組</p>  <p data-bbox="657 1697 1326 1785">一人ずつ名前のコールを受け、入場ゲートをくぐり、持久水泳認定会への意気込みを一言。</p>

<p>10:10～</p>	<p>7分間持久水泳認定会 1組</p> 
<p>10:25～</p>	<p>7分間持久水泳認定会 2組</p>
<p>10:50～</p>	<p>20分・7分間完泳者認定証授与</p>  <p>認定証は一人一人手渡された。</p> 

<p>11:40～</p>	<p>10分間持久水泳2組 スタート前少し緊張。</p> 
<p>12:00～</p>	<p>30分間持久水泳2組</p>  <p>気合十分!</p>
<p>12:45～</p>	<p>閉会式</p>  <p>全員認定証を受け取り全プログラム終了。</p>
<p>13:00</p>	<p>終了</p>

4. 成果及び評価

(1) 普及促進基礎事業「ふれあいスイミング」

鳴門教育大学附属特別支援学校においては、昨年に引き続き小学部の児童生徒の水泳レッスンを実施した。事前に支援学校の先生方と打ち合わせを行い対象者の現在の泳力や学校でのプール活動の内容等を考慮し、班編成を行った結果、水に不慣れなクラスから経験者が多いクラスまで泳力に合わせた専門的な指導を行うことができた。またそれが、児童生徒の技術の習得や泳力向上に繋げることができた。

国府支援学校においては、小学部の中高学年を対象にレッスンを実施した。プールの経験が少なく水に不慣れな児童生徒が多いことから、無理をさせないように班編成を行い、先生方の協力を得ながら、ゆっくり、はっきり、具体的に、同じことを何度も繰り返し練習をした。最初は嫌がる様子が見えたが、時間が経過するにつれ先生の手を離し自分から参加する姿が多くみられた。レッスンの最後に自由時間をとり入れたところ、レッスンの時とは違う楽しそうな表情をみることができた。

さらに、先生方から指導方法や泳ぎの補助の仕方、水が苦手な者へのアプローチの仕方等の質問があったので、それを踏まえ具体的にレッスンを行った。

レッスン終了後、先生方からは「学校のプール活動に活かしたい」「積極的に補助ができるようになった」との嬉しい声を聴くことができたが、これはふれあいスイミング開催の大きな意義でもあった。

(2) 普及促進支援事業「持久水泳認定会」

今年度の参加者は昨年度より51名多い152名の参加があった。毎年参加する方が多くみられ、持久水泳認定会の認知度が高まってきたと実感した。

大きなトラブルもなくスムーズに認定会が進行し、参加者全員が自分に課した目標の時間を完泳することができ大きな自信に繋がった。会場全体が一体となり、プールサイドから大きな声援を送り泳ぎ終わった参加者を大きな拍手で出迎えた。完泳者には認定証が一人一人手渡されその表情は達成感や満足感に溢れとても印象的であった。

障がいの有無に関わらず、小さな子供から高齢者までが同じ場所に立ちそれぞれが目的を達成する。このような成功や体験を繰り返し重ねることは、スポーツをする上では重要なことであり、この持久水泳で得られた経験は生涯に亘りスポーツに親しむ習慣や意欲を育むことができたと感じた。

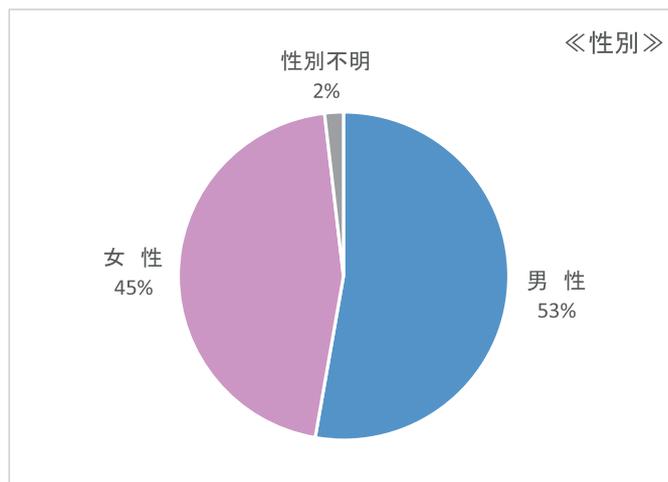
5. おわりに

持久水泳認定会参加者アンケート調査の結果を実施しましたので、集計結果を記載。

2019年度 持久水泳認定会 参加者アンケート
回答者の性別・年齢・障がいの有無

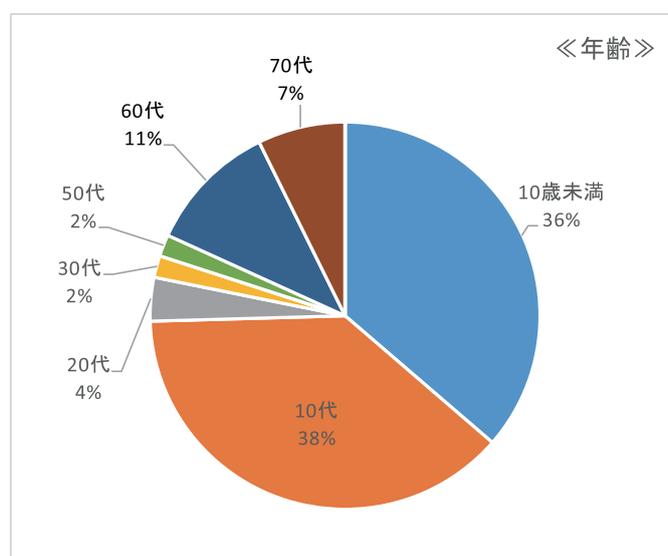
【性別内訳】

性別	全体	障がい者	健常者	障がい不明
男性	29	8	20	1
女性	25	1	23	1
性別不明	1	0	1	0
合計	55	9	44	2



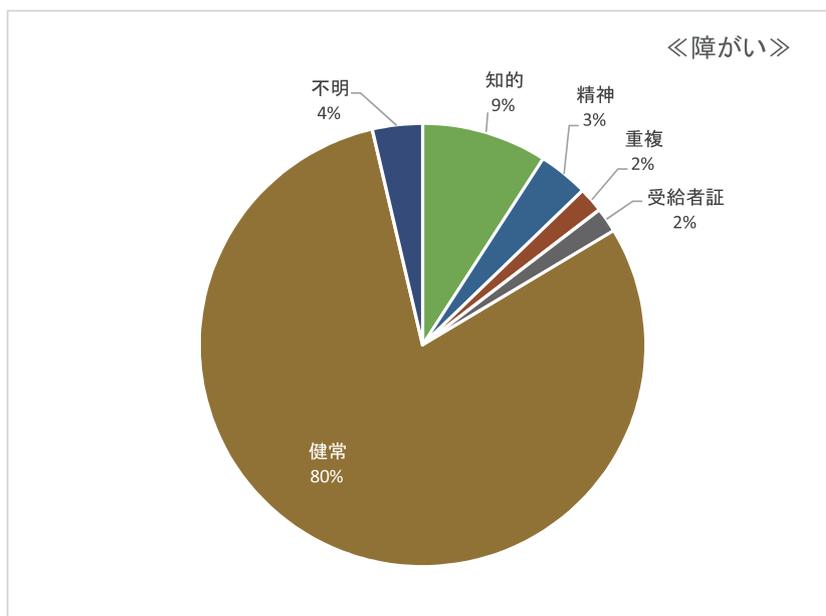
【年齢内訳】

年齢	全体	障がい者	健常者	障がい不明
10歳未満	20	2	18	0
10代	21	4	16	1
20代	2	2	0	0
30代	1	1	0	0
40代	0	0	0	0
50代	1	0	1	0
60代	6	0	5	1
70代	4	0	4	0
80代	0	0	0	0
年齢不明	0	0	0	0
合計	55	9	44	2



【障がい内訳】

年齢	全体	
肢体	0	9
視覚	0	
聴覚	0	
言語	0	
内部	0	
知的	5	
精神	2	
重複	1	
受給者証	1	
健常	44	
不明	2	2
合計	55	55



Q1 この事業は何で知りましたか？（重複回答あり）

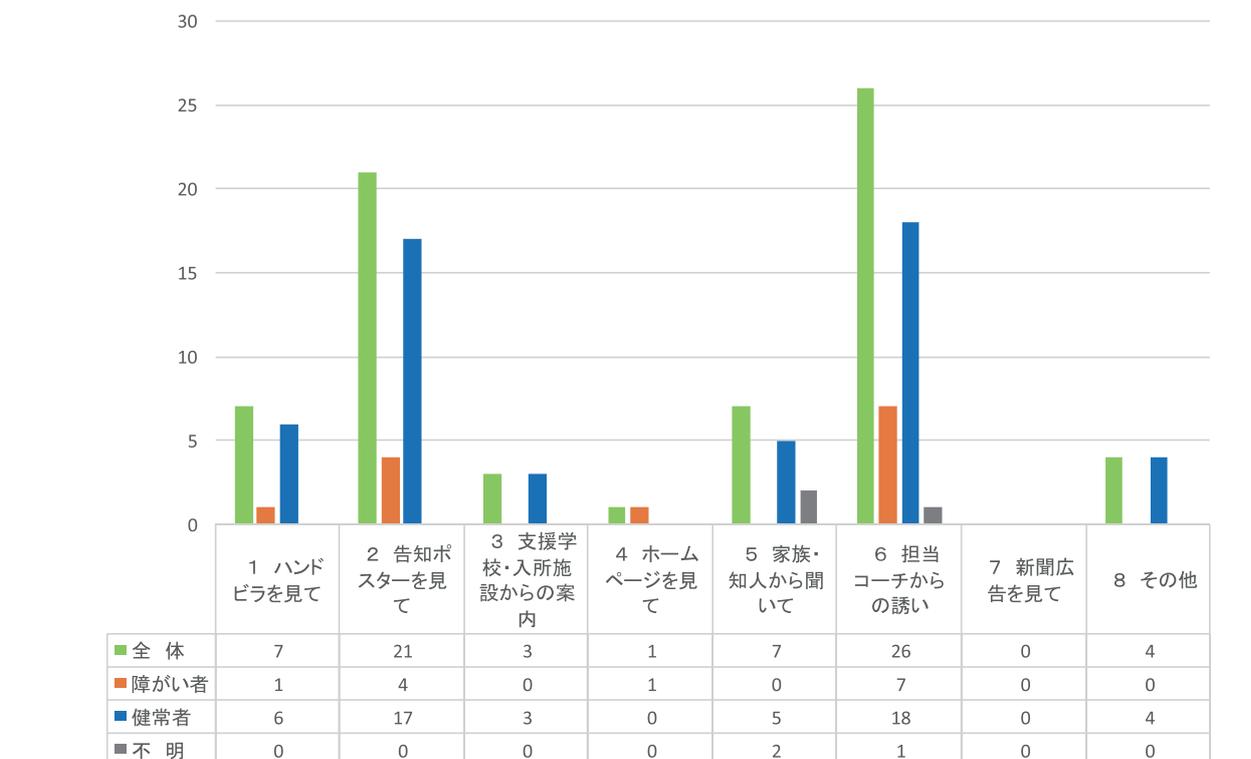
	全 体	割合	障がい者	健常者	不 明
1 ハンドビラを見て	7	10.1%	1	6	0
2 告知ポスターを見て	21	30.4%	4	17	0
3 支援学校・入所施設からの案内	3	4.3%	0	3	0
4 ホームページを見て	1	1.4%	1	0	0
5 家族・知人から聞いて	7	10.1%	0	5	2
6 担当コーチからの誘い	26	37.7%	7	18	1
7 新聞広告を見て	0	0.0%	0	0	0
8 その他	4	5.8%	0	4	0
合 計	69	100.0%	13	53	3

回答総数（重複回答あり）	69	13	53	3
回答なし	0名	0	0	0
重複回答があったのは （うち、2つ回答14名）	14名	4名	9名	1名

8(その他の回答)

- ・昨年参加してのDM × 3名
- ・中学校の水泳部で知った

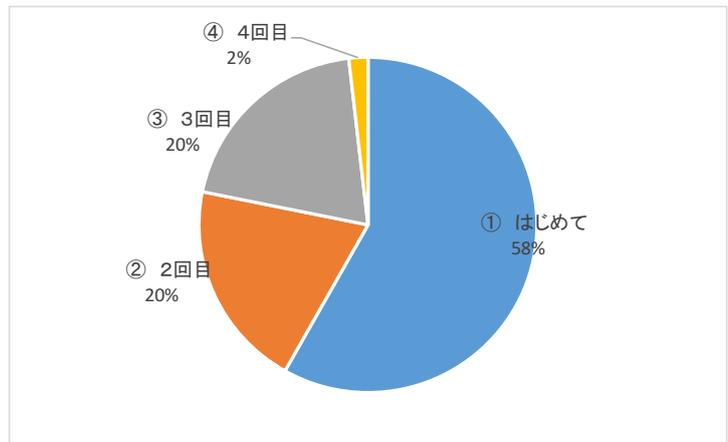
Q1 この事業は何で知りましたか？（重複回答あり）



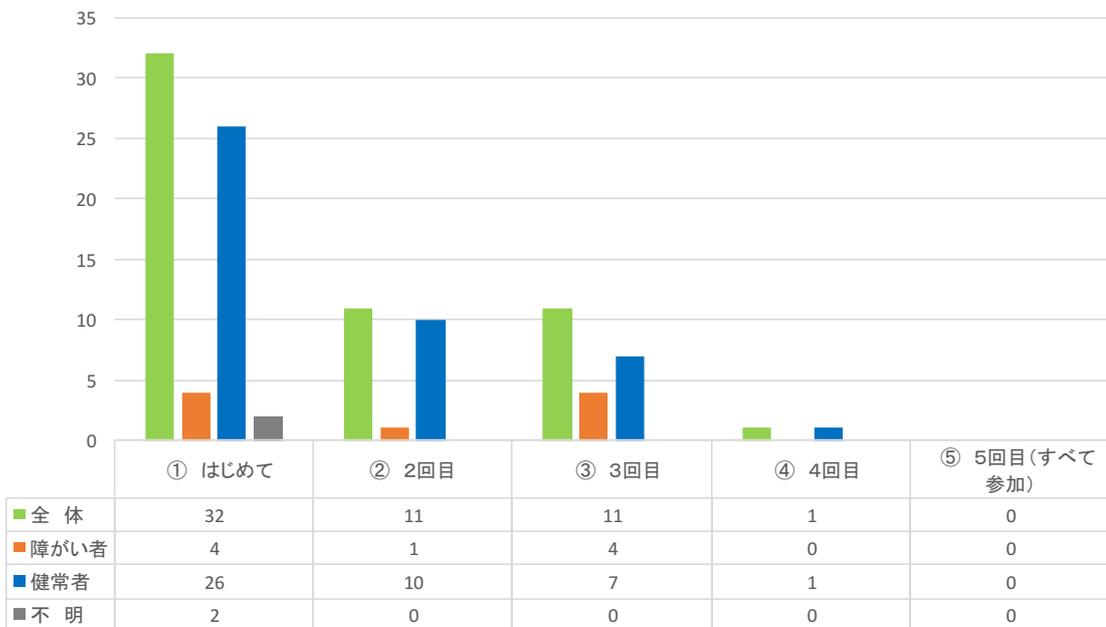
Q2 持久水泳認定会は何回目の出場ですか？

	全 体	割合	障がい者	健常者	不 明
① はじめて	32	58.2%	4	26	2
② 2回目	11	20.0%	1	10	0
③ 3回目	11	20.0%	4	7	0
④ 4回目	1	1.8%	0	1	0
⑤ 5回目(すべて参加)	0	0.0%	0	0	0
合 計	55	100.0%	9	44	2

回答総数 (重複回答あり)	55	9	44	2
回答なし	0名	0	0	0



Q2 持久水泳認定会は何回目の出場ですか？



Q3 この事業に参加しようとした理由は？（重複回答あり）

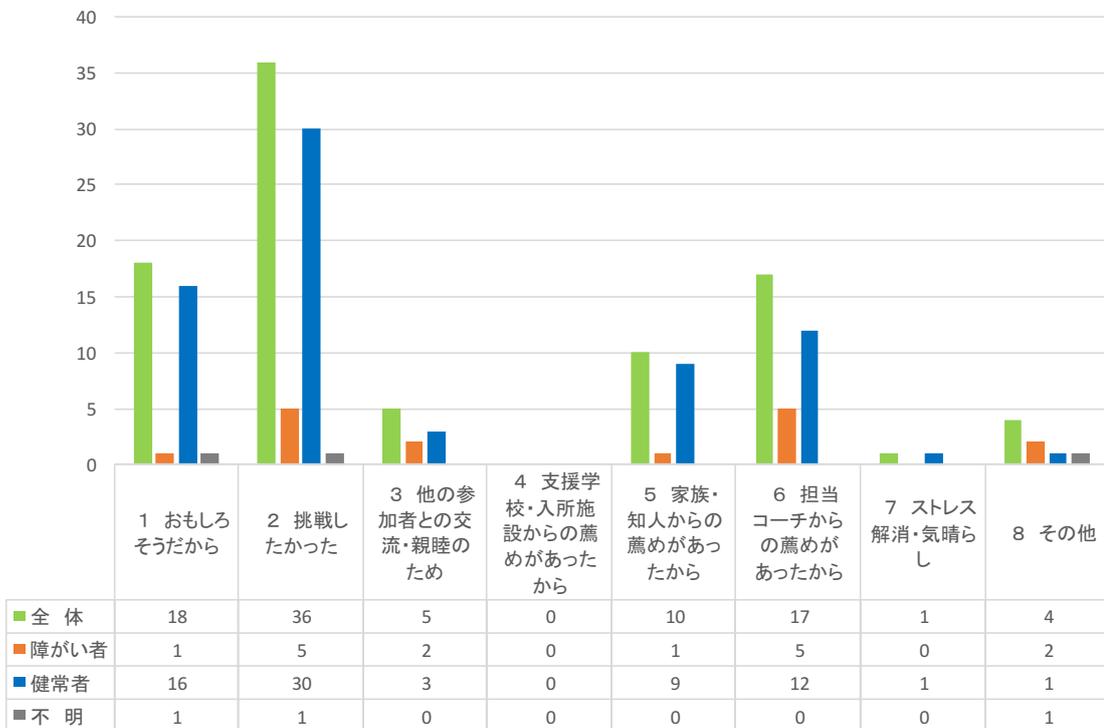
	全体	割合	障がい者	健常者	不明
1 おもしろそうだから	18	19.8%	1	16	1
2 挑戦したかった	36	39.6%	5	30	1
3 他の参加者との交流・親睦のため	5	5.5%	2	3	0
4 支援学校・入所施設からの薦めがあったから	0	0.0%	0	0	0
5 家族・知人からの薦めがあったから	10	11.0%	1	9	0
6 担当コーチからの薦めがあったから	17	18.7%	5	12	0
7 ストレス解消・気晴らし	1	1.1%	0	1	0
8 その他	4	4.4%	2	1	1
合計	91	100.0%	16	72	3

回答総数（重複回答あり）	91	16	72	3
回答なし	0名	0	0	0
重複回答があったのは	24名	6名	17名	1名
（うち、4つ回答4名、3つ回答4名、2つ回答16名）				

8(その他の回答)

- ・持久力がつきそうだから
- ・先輩のすすめ

Q3 この事業に参加しようとした理由は？（重複回答あり）

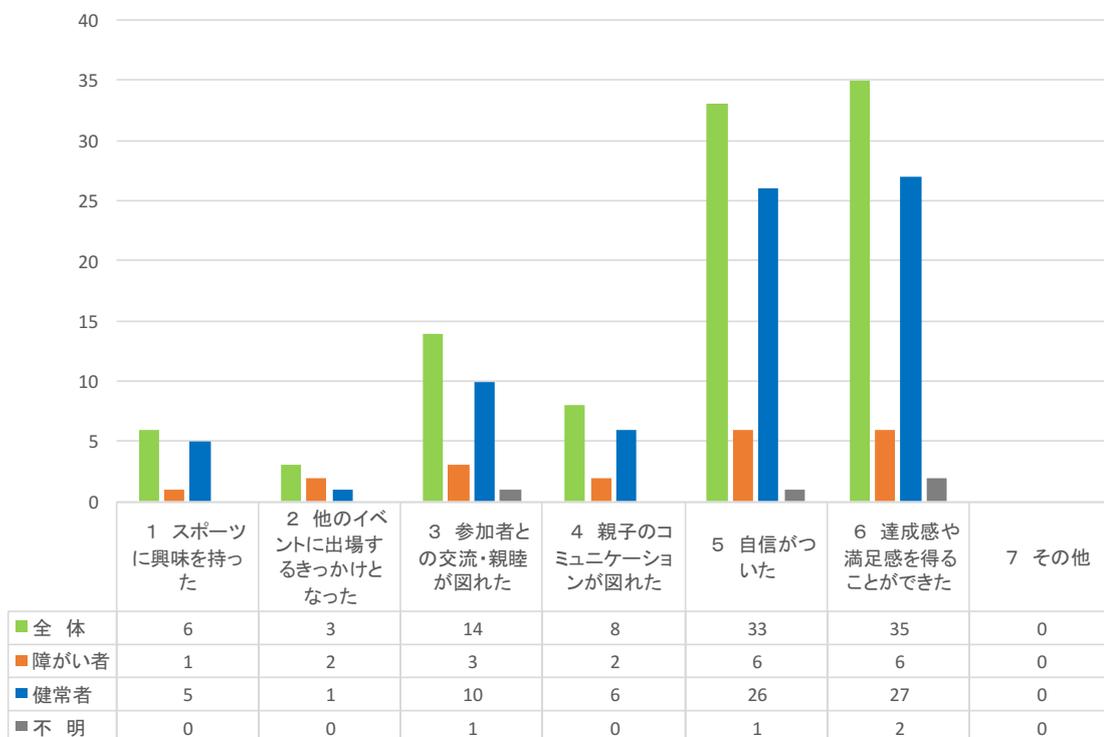


Q4 この事業に参加して、どのような成果(効果)がありましたか？（重複回答あり）

	全 体	割合	障がい者	健常者	不 明
1 スポーツに興味を持った	6	6.1%	1	5	0
2 他のイベントに出場するきっかけとなった	3	3.0%	2	1	0
3 参加者との交流・親睦が図れた	14	14.1%	3	10	1
4 親子のコミュニケーションが図れた	8	8.1%	2	6	0
5 自信がついた	33	33.3%	6	26	1
6 達成感や満足感を得ることができた	35	35.4%	6	27	2
7 その他	0	0.0%	0	0	0
合 計	99	100.0%	20	75	4

回答総数（重複回答あり）	99	20	75	4
回答なし	1名	0	1	0
重複回答があったのは	27名	5名	20名	2名
（うち、6つ回答1名、4つ回答3名、3つ回答9名、2つ回答14名）				

Q4 この事業に参加して、どのような成果(効果)がありましたか？
（重複回答あり）



Q5 今後どのようなスポーツ活動に参加してみたいと思いますか？（重複回答あり）

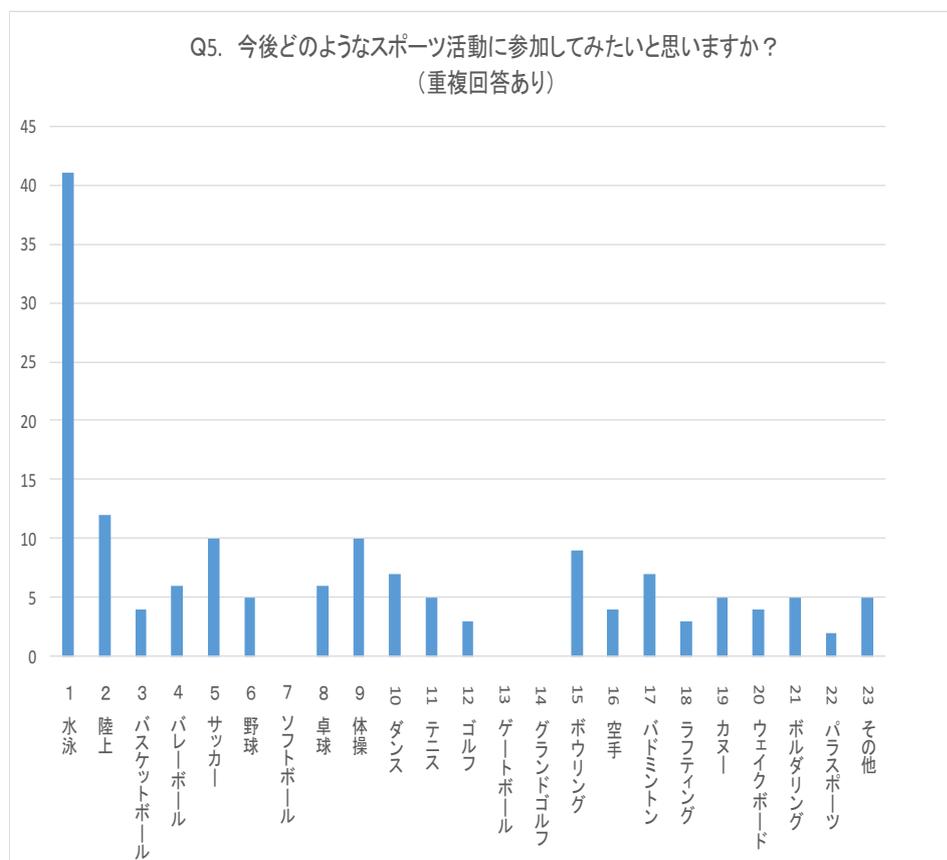
1 水泳	41	9 体操	10	17 バドミントン	7
2 陸上	12	10 ダンス	7	18 ラフティング	3
3 バスケットボール	4	11 テニス	5	19 カヌー	5
4 パレーボール	6	12 ゴルフ	3	20 ウェイクボード	4
5 サッカー	10	13 ゲートボール	0	21 ボルダリング	5
6 野球	5	14 グランドゴルフ	0	22 パラスポーツ	2
7 ソフトボール	0	15 ボウリング	9	23 その他	5
8 卓球	6	16 空手	4		
計	84	計	38	計	31

回答総数（重複回答あり） 153

回答なし 1名

その他

BMX、自転車、SUP、クリケット、ラグビー(2名)、スキー



Q6 今回の事業も含め、スポーツを実施するにあたり妨げになっていることは？（重複回答あり）

	全 体	割合	障がい者	健常者	不 明
1 スポーツができる場所がない	5	5.5%	1	4	0
2 どこでできるか情報がない	12	13.2%	3	8	1
3 どんなことができるか情報がない	8	8.8%	2	6	0
4 指導者がいない	6	6.6%	2	4	0
5 一緒にできる仲間がいない	8	8.8%	2	6	0
6 介助者がいない	1	1.1%	1	0	0
7 金銭的余裕がない	8	8.8%	1	7	0
8 時間がない	16	17.6%	3	13	0
9 体力がない	6	6.6%	2	3	1
10 障がいに適したスポーツがない	3	3.3%	3	0	0
11 やりたいと思うスポーツがない	0	0.0%	0	0	0
12 スポーツが苦手である	1	1.1%	0	1	0
13 実施場所までの交通・移動手段がない	5	5.5%	1	4	0
14 特になし	10	11.0%	1	9	0
15 その他	2	2.2%	1	1	0
合 計	91	100.0%	23	66	2

回答総数（重複回答あり） 91 23 66 2

回答なし 4名 0 4 0

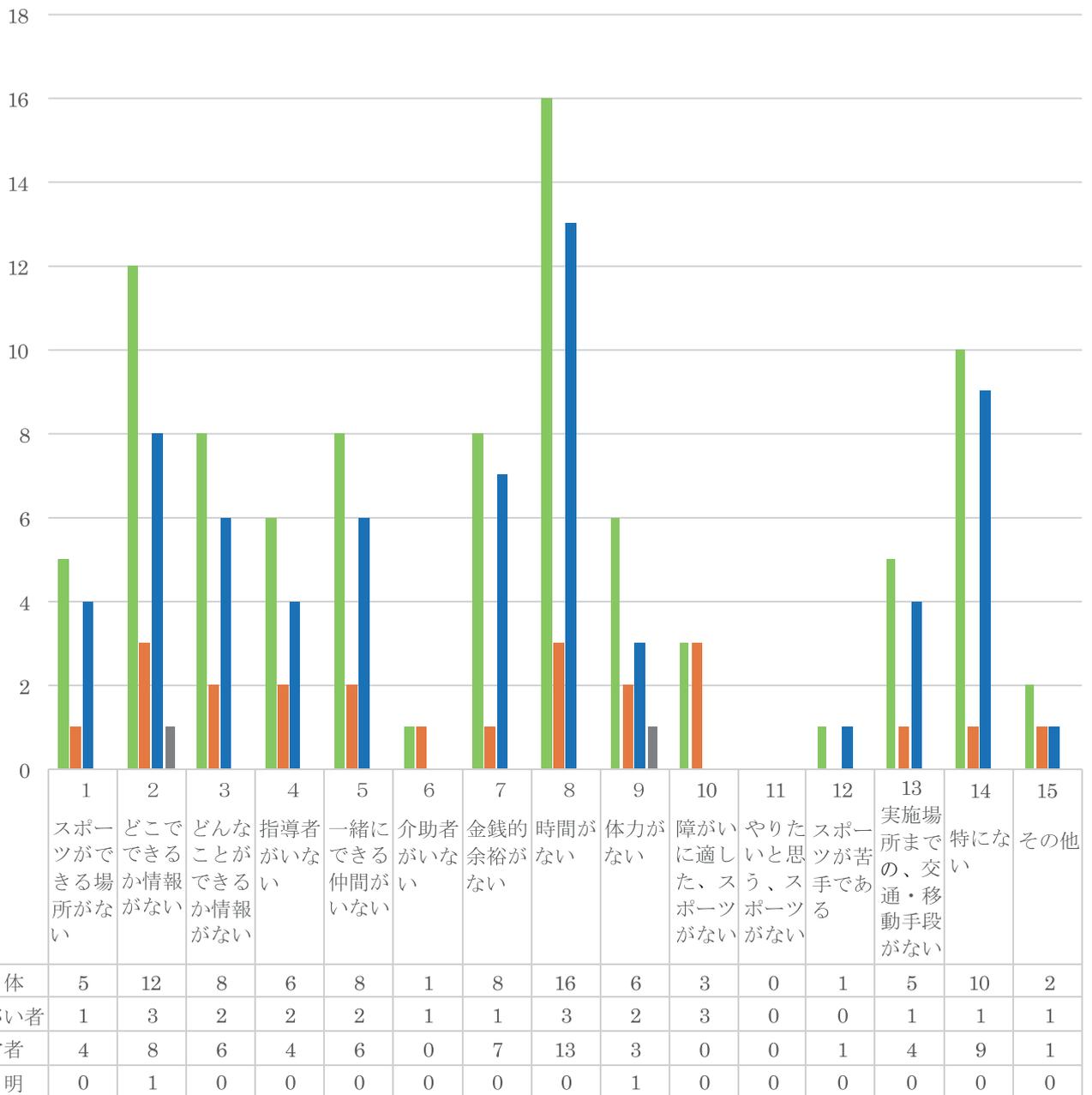
重複回答があったのは 22名 7名 15名 0名

（うち、6つ回答1名、5つ回答1名、4つ回答1名、3つ回答9名、2つ回答10名）

15その他

初心者でも気軽に参加できるイベントがよいです
一回徳島駅に行ってから、また乗り換えになる。

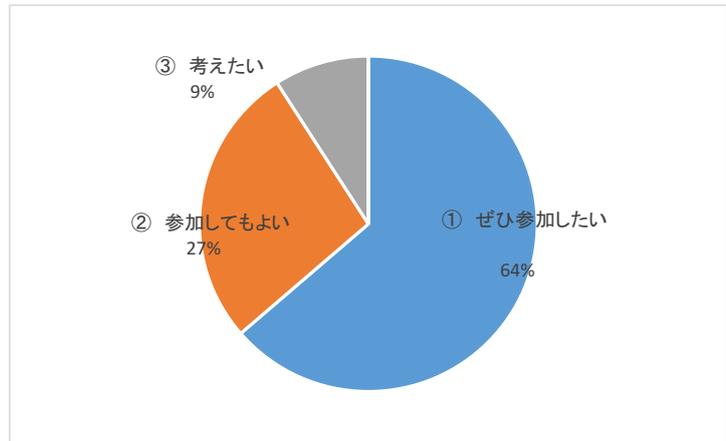
Q6 今回の事業を含め、スポーツを実施するにあたり妨げになっていることは？
(重複回答あり)



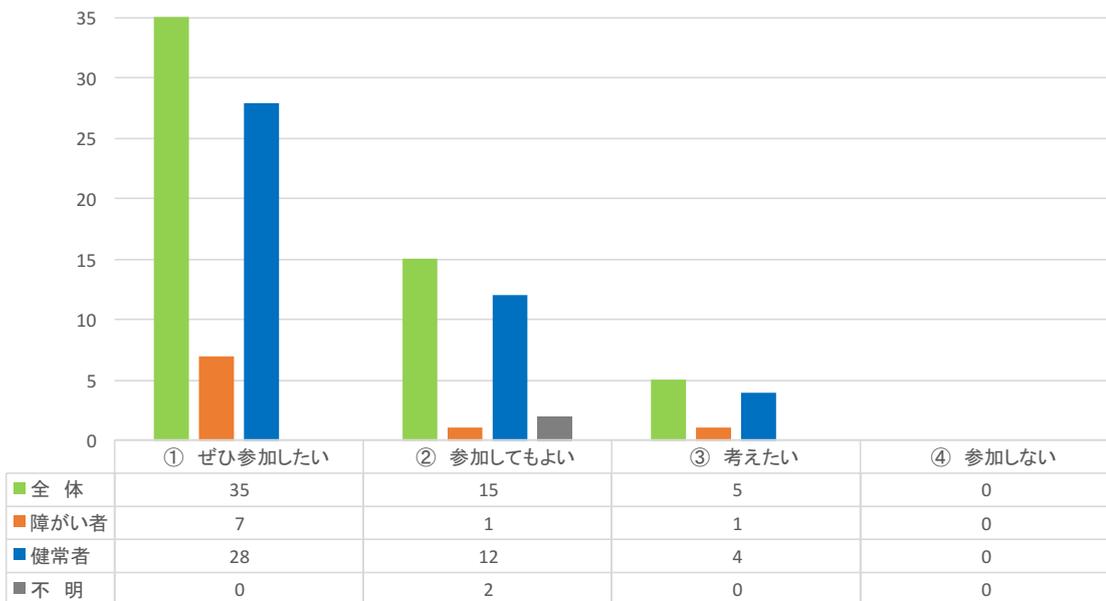
Q8 次回も持久水泳があったら参加してみたいですか？

	全 体	割合	障がい者	健常者	不 明
① ぜひ参加したい	35	63.6%	7	28	0
② 参加してもよい	15	27.3%	1	12	2
③ 考えたい	5	9.1%	1	4	0
④ 参加しない	0	0.0%	0	0	0
合 計	55	100.0%	9	44	2

回答総数（重複回答あり）	55	9	44	2
回答なし	0名	0	0	0



Q8 次回も持久水泳があったら参加してみたいですか？



Q9 ご意見、ご要望、お気づきの点がありましたらご自由にお書きください。

7分間だったので、途中認定証授与式があったのは有り難かった。楽しかったようです。
ありがとうございました。 (7才 女性 健常)

ありがとうございました (7才 女性 健常)

ありがとうございました。次回は20分に出たいと思います。 (9才 男性 健常)

泳ぐ目標ができて良かったです。お世話になりました。 (71才 女性 健常)

姉妹で違う分数にチャレンジしたいので、次回からは前半と後半でどの分数の認定会をするか、
事前に分かると申し込みの際に助かると思いました。今回はありがとうございました。
(10才 女性 健常)

スタッフの方々が親切で、会場を盛り上げていて、とても楽しい認定会でした。ありがとうございました。
いつも思うのですが、石井ドームのコーチの方々は、ていねいで優しく安心して子供をお願いしています。
(11才 女性 健常)

スタッフの方は大変だと思いました。気持ち良く参加させていただきありがとうございました。
(61才 女性 健常)

楽しかったです。ありがとうございました。 (10才 男性 健常)

楽しく参加できました。ありがとうございました。アナウンス楽しくもり上がられました。 (13歳 男性 健常)

とってもたのしかったです。 (7才 男性 健常)

友達と挑戦できて楽しかったです。 (10才 男性 健常)

どんどん練習して持久力をつけたい。友達とかを誘って参加したい。 (35歳 女性 知的障がい)

初めての挑戦でしたが、楽しかったで一す!! (69才 女性 障がい不明)

マイクの声が聞こえなかったので、どうにかくふうしてほしい。 (6才 女性 健常)

毎日お世話になりありがとうございます。 (69才 男性 健常)

めっちゃ楽しかったです!!参加して良かった!!また来たいな。 (7才 女性 健常)

有意義な大会と思います。ありがとうございました。 (71才 性別不明 健常)

2019年度スポーツ庁委託事業
「障害者スポーツ推進プロジェクト」
(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)

2019年度障がい者スポーツ推進プログラム
令和2年3月 発行

発行 徳島県保健福祉部障がい福祉課障がい者活躍推進室